

釜石市における被災後の生活 アンケート調査結果（速報）

関西大学社会安全学部

教授 永松伸吾

教授 元吉忠寛

博士後期課程 静間健人

はじめに

- 東日本大震災から7年が経過して、復興工事も形が見えるようになってきた
- 人々の復興のプロセスは多様
 - 自立再建、仮設から復興公営、仮設から自立再建
- 長期的な被災者支援活動の役割

- 過去を振り返り、現在どのような暮らしをしているのか、心の健康状態はどうなっているのか？
- @リアスの支援連絡員、社会福祉協議会による生活支援相談員の活動の評価

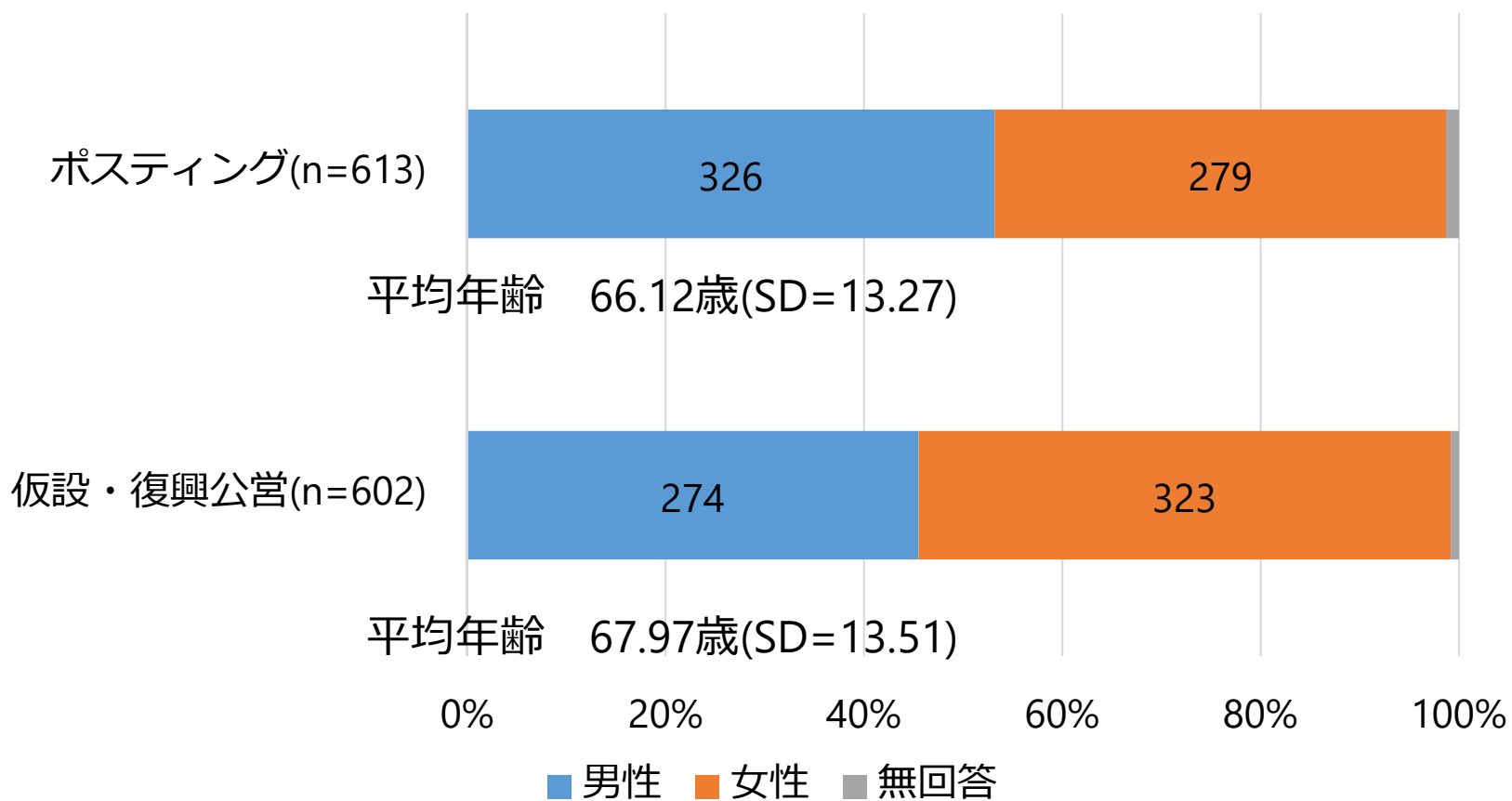
調査概要

- 調査時期
 - 2018年3月
- 調査方法
 - 仮設住宅、復興公営住宅、見なし仮設
 - 支援連絡員(@リアス)および生活支援相談員(社協)による訪問配布、留め置き回収または郵送回収
 - 被害なし、自立再建
 - 地域を被災状況に応じて層化した上でポスティングによる訪問配布、郵送回収
 - 回収数1215名 回収率 約25%
- 調査項目
 - 個人属性、困ったこと、コミュニケーション、現在の生活意識、こころの健康(K6の改訂版)など

現在の住居(配布方法とのクロス表)

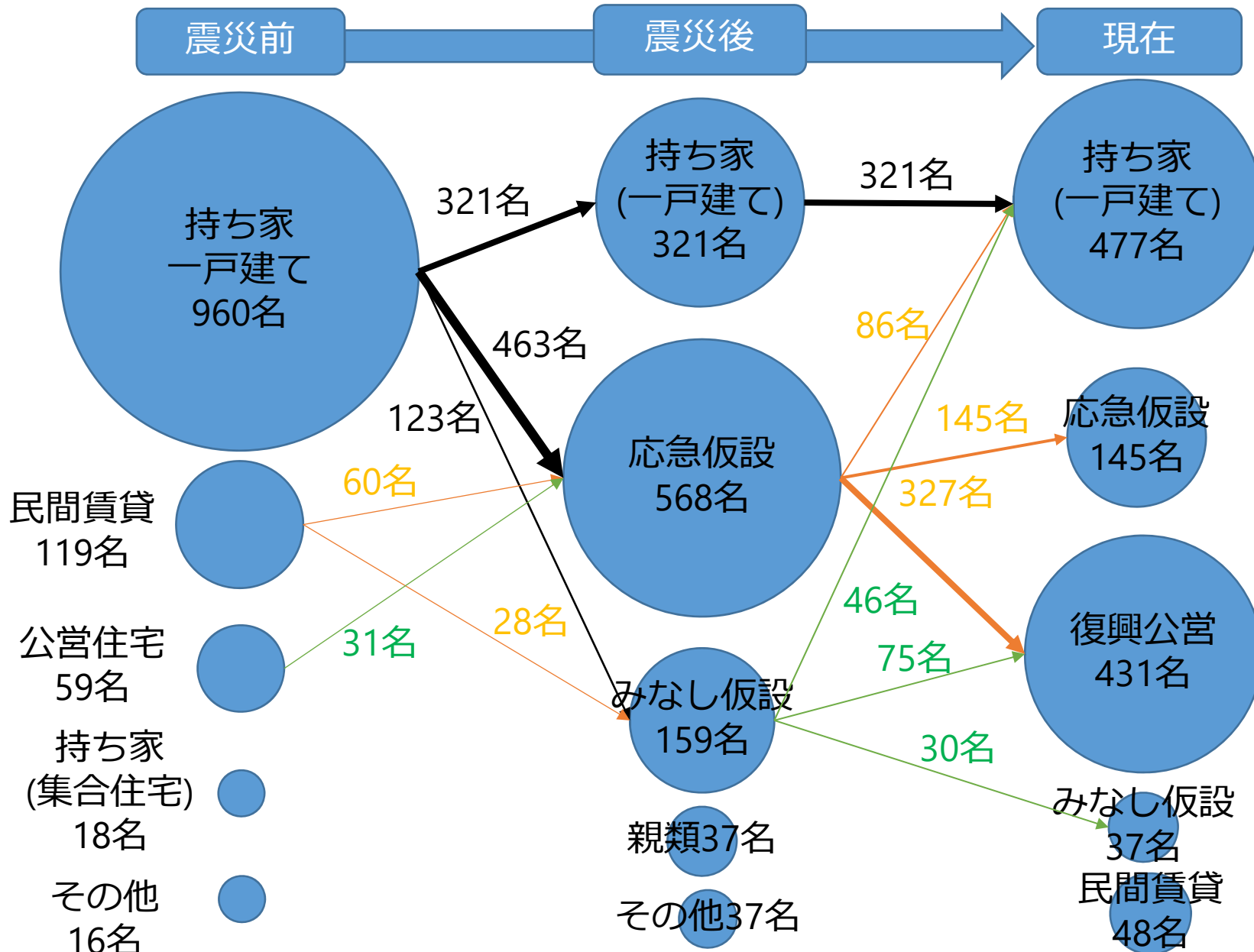
	応急仮設住宅	みなし仮設住宅	復興公営住宅	賃貸住宅(自己負担)	持ち家(一戸建て)	持ち家(集合住宅)	その他	合計
仮設復興公営	147	23	416	5	5	1	1	598
ポスティング	8	14	19	44	488	11	15	599
合計	155	37	435	49	493	12	16	1197

対象者の基本属性（性別、年齢）



60歳以上の者が7割以上

住まいの変化



復興過程の5グループ

① **自宅**のまま(被害あり)グループ

平均年齢66.8歳 SD=11.81

197名

② 自宅損壊→仮設 →

平均年齢66.7歳 SD=12.74

持ち家再建

144名

③ 自宅損壊→仮設 →

平均年齢68.9歳 SD=13.46

復興公営

415名

④ 自宅損壊→仮設

平均年齢64.6歳 SD=13.73

将来自宅再建

118名

⑤ 自宅のまま(**被害なし**)

平均年齢67.6歳 SD=13.03

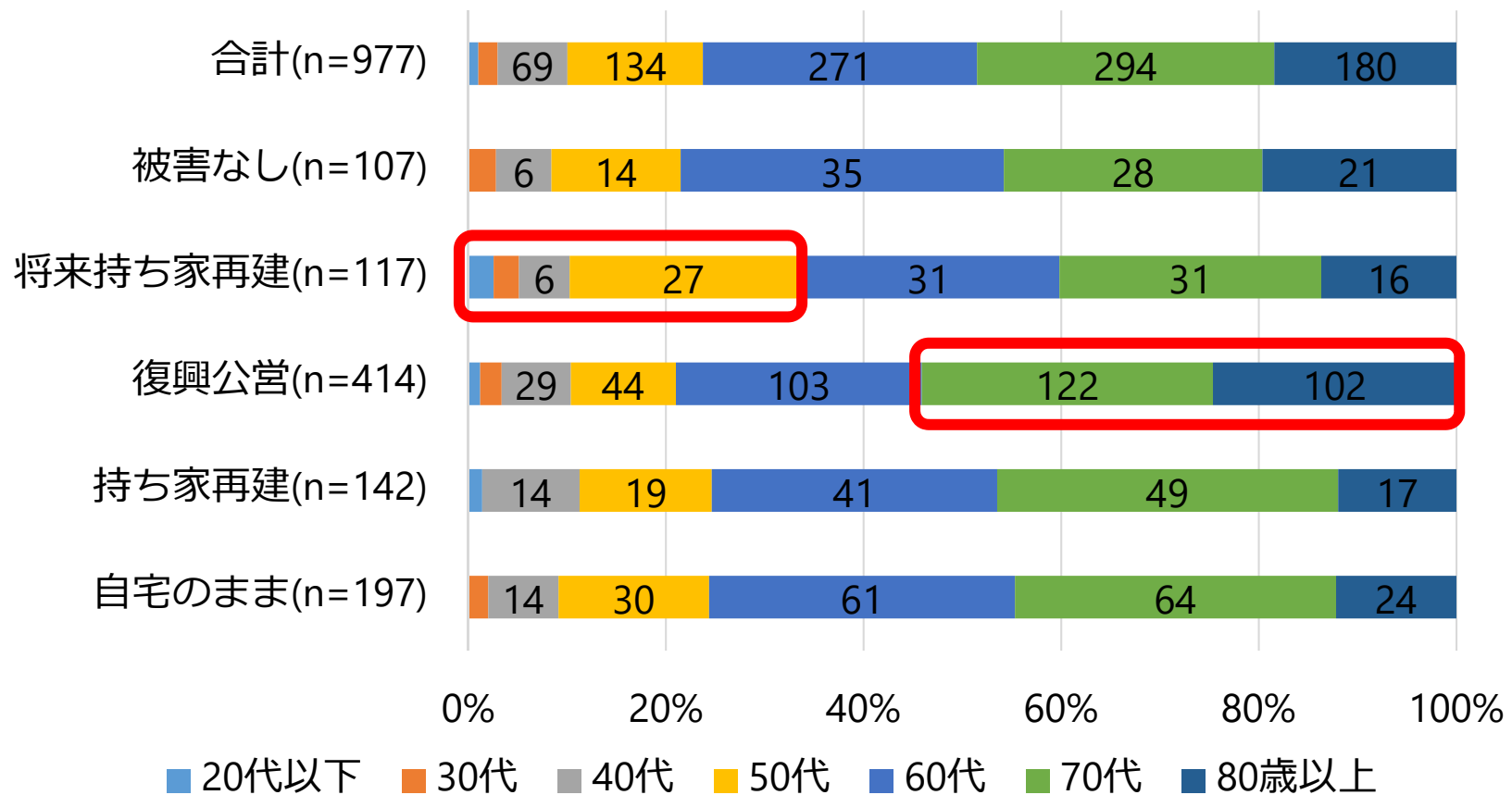
107名

自宅の被害状況

	全壊・流出	大規模半壊	半壊	一部損壊	被害なし	その他	
自宅のまま	15	20 ①	25	132	⑤ 157	2	301
持ち家再建	120	18 ②	4	1	1	0	144
復興公営	369	26 ③	8	8	2	0	413
将来持ち家再建	111	3 ④	2	0	1	0	117
	615	67	39	141	111	2	975

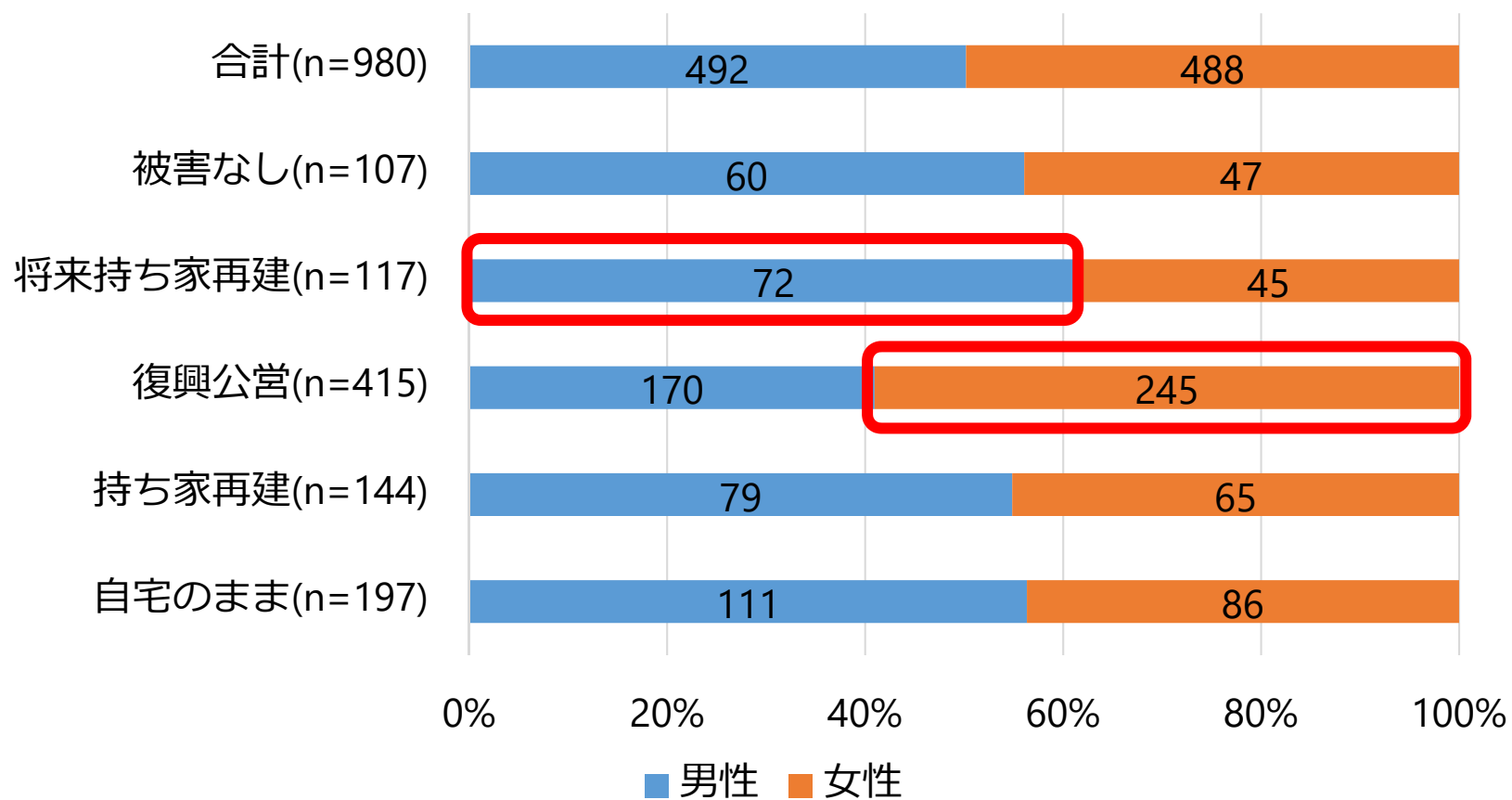
復興タイプと年代

復興公営の方は、高齢者が多く、将来持ち家再建の方は、相対的には若い。



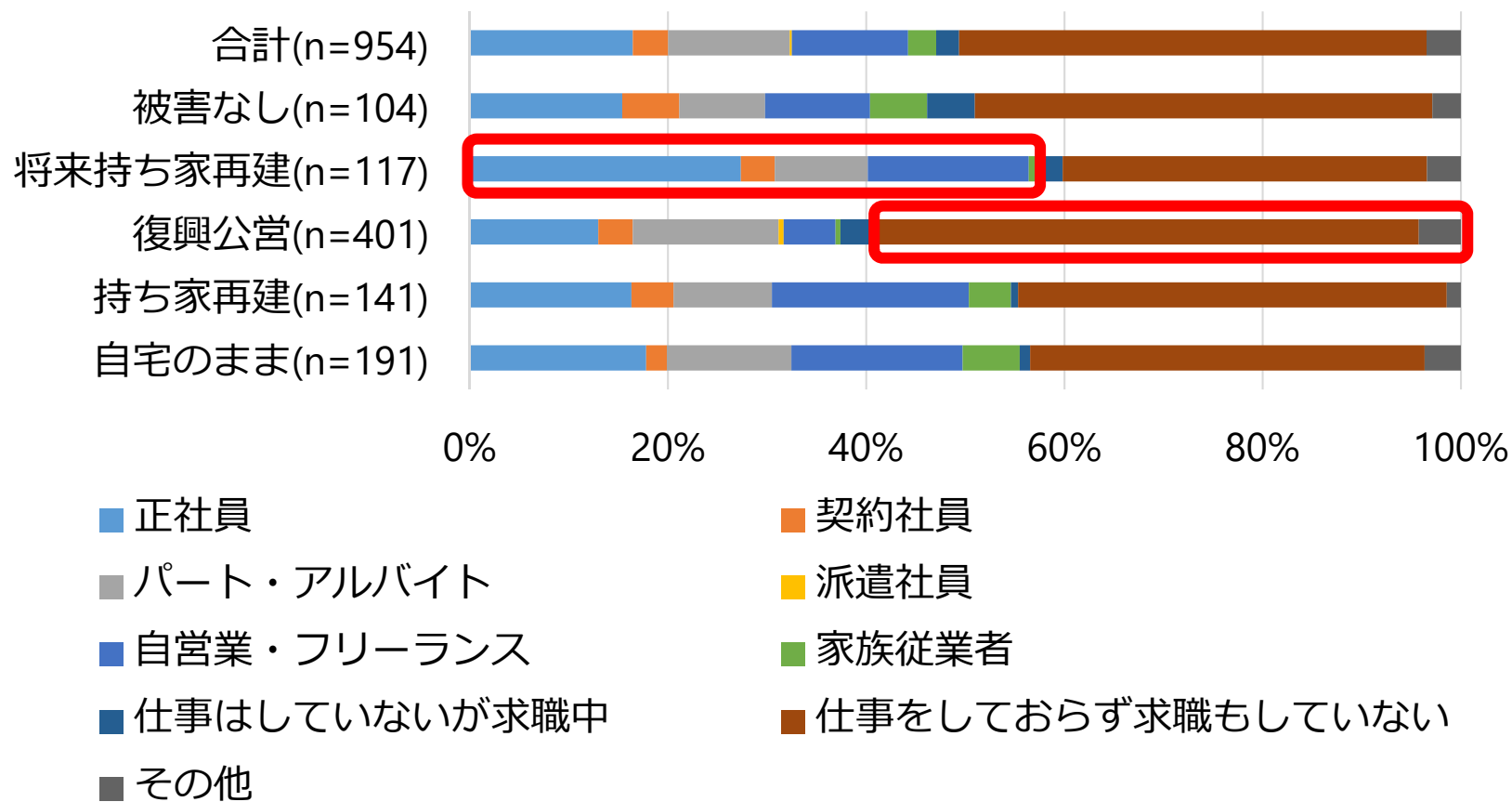
復興タイプと性別

復興公営の方に、女性が多く、将来持ち家再建の方に、男性が多い。



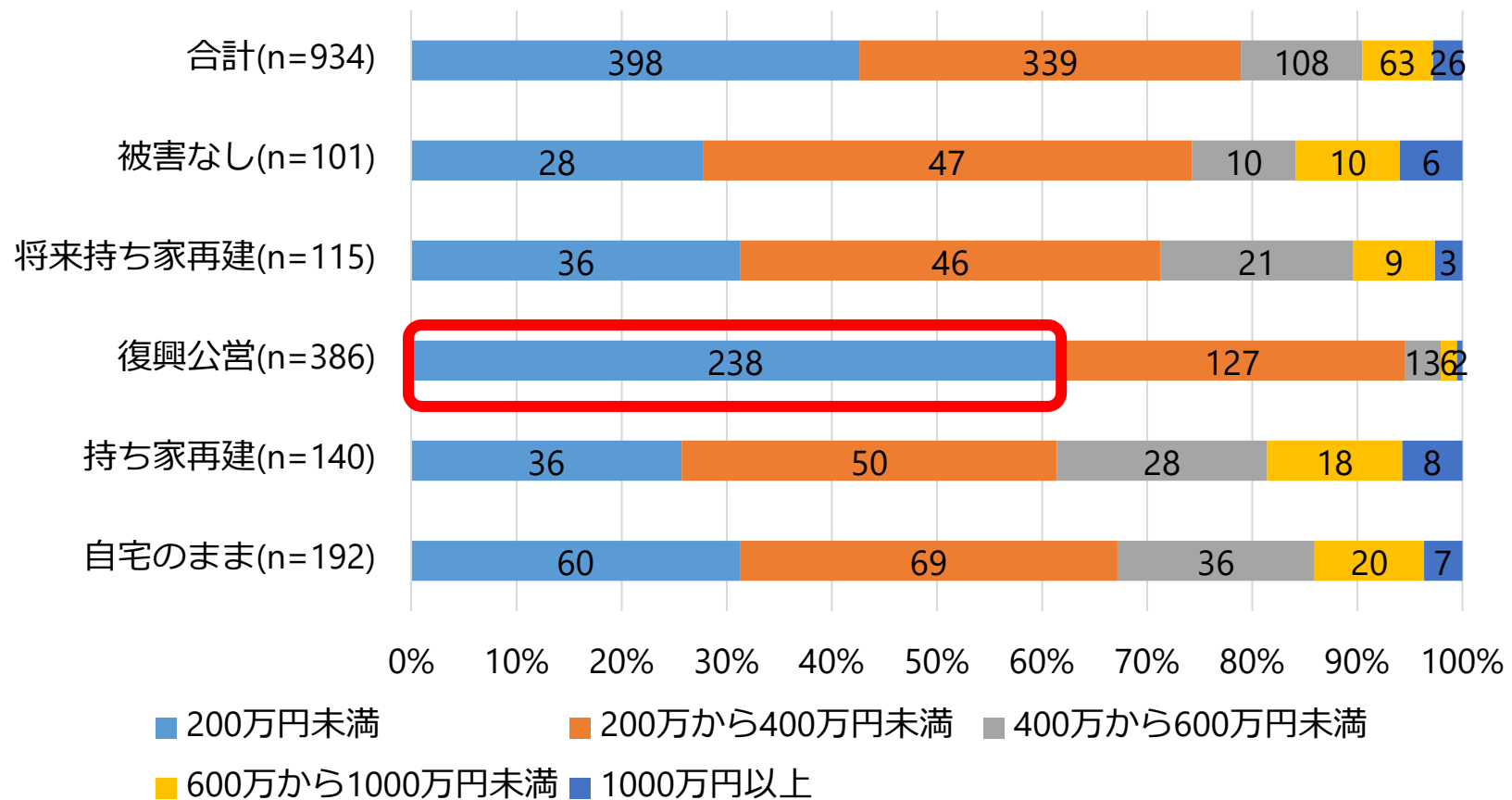
復興タイプと職業

復興公営の方に、年金生活者が多く、将来持ち家再建の方に有職者が多い。



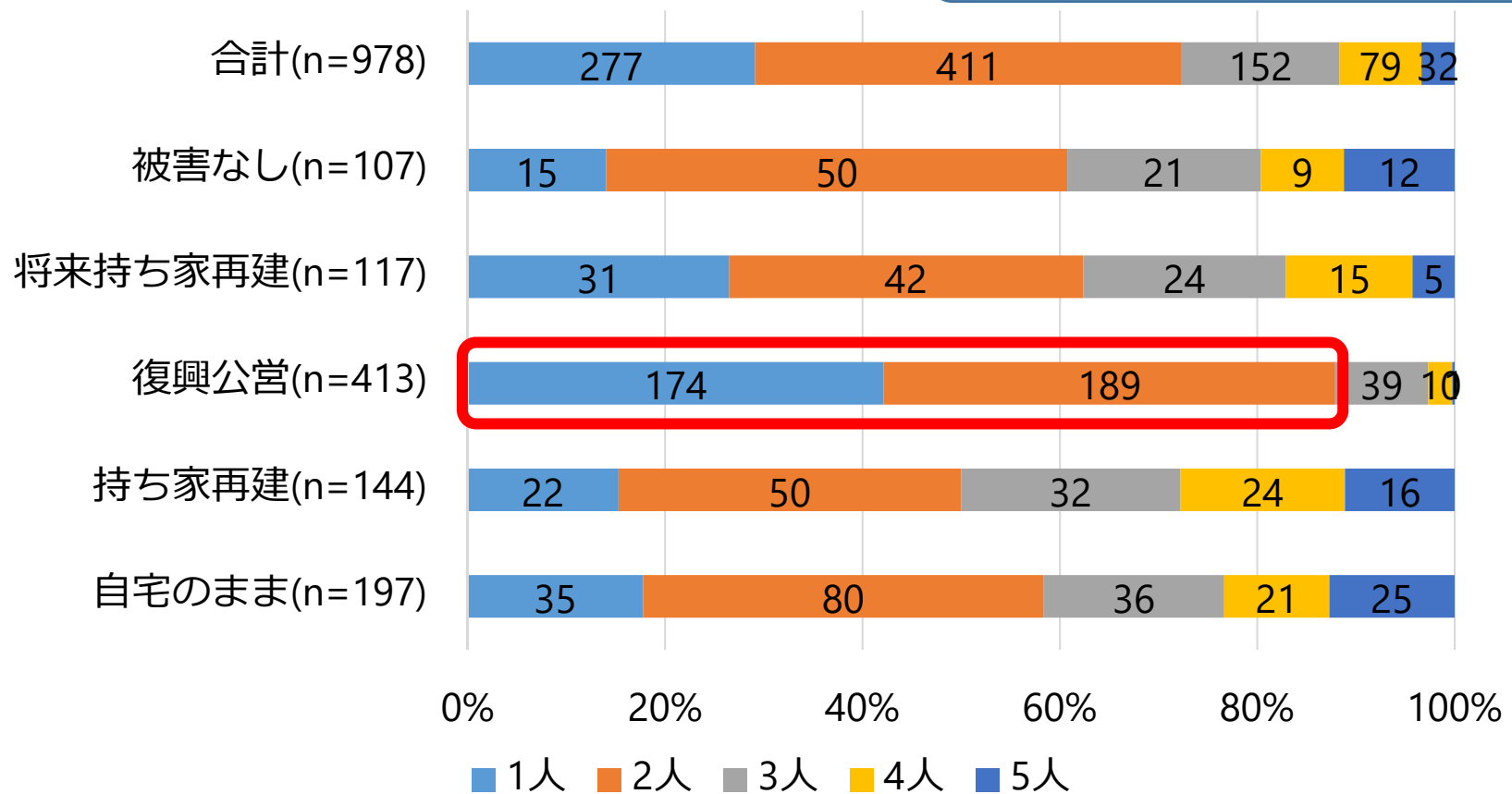
復興タイプと世帯年収

復興公営の方は、200万未満が60%以上。400万未満がほとんど。



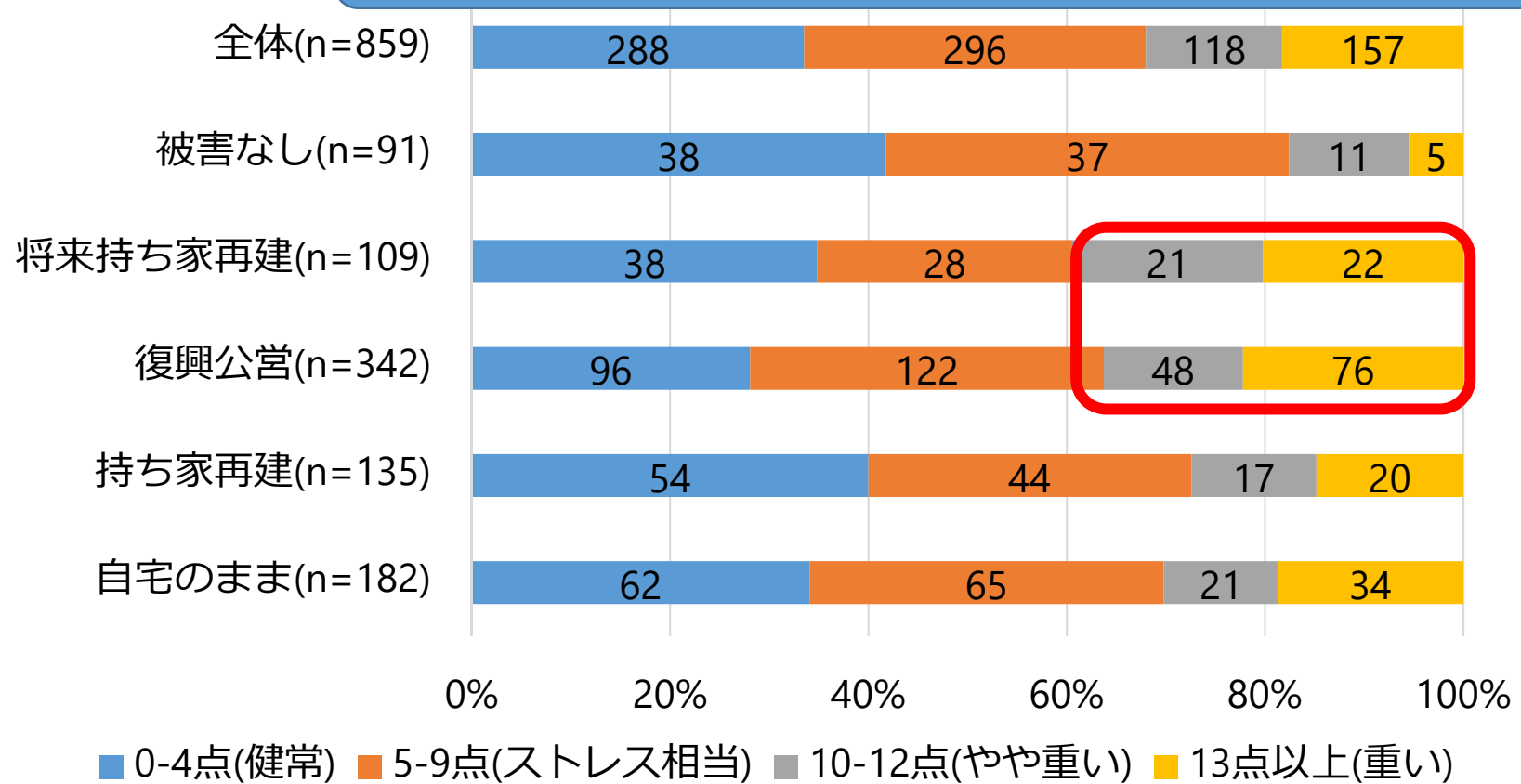
復興タイプと同居家族

復興公営の方は、独居または二人暮らしがほとんど。



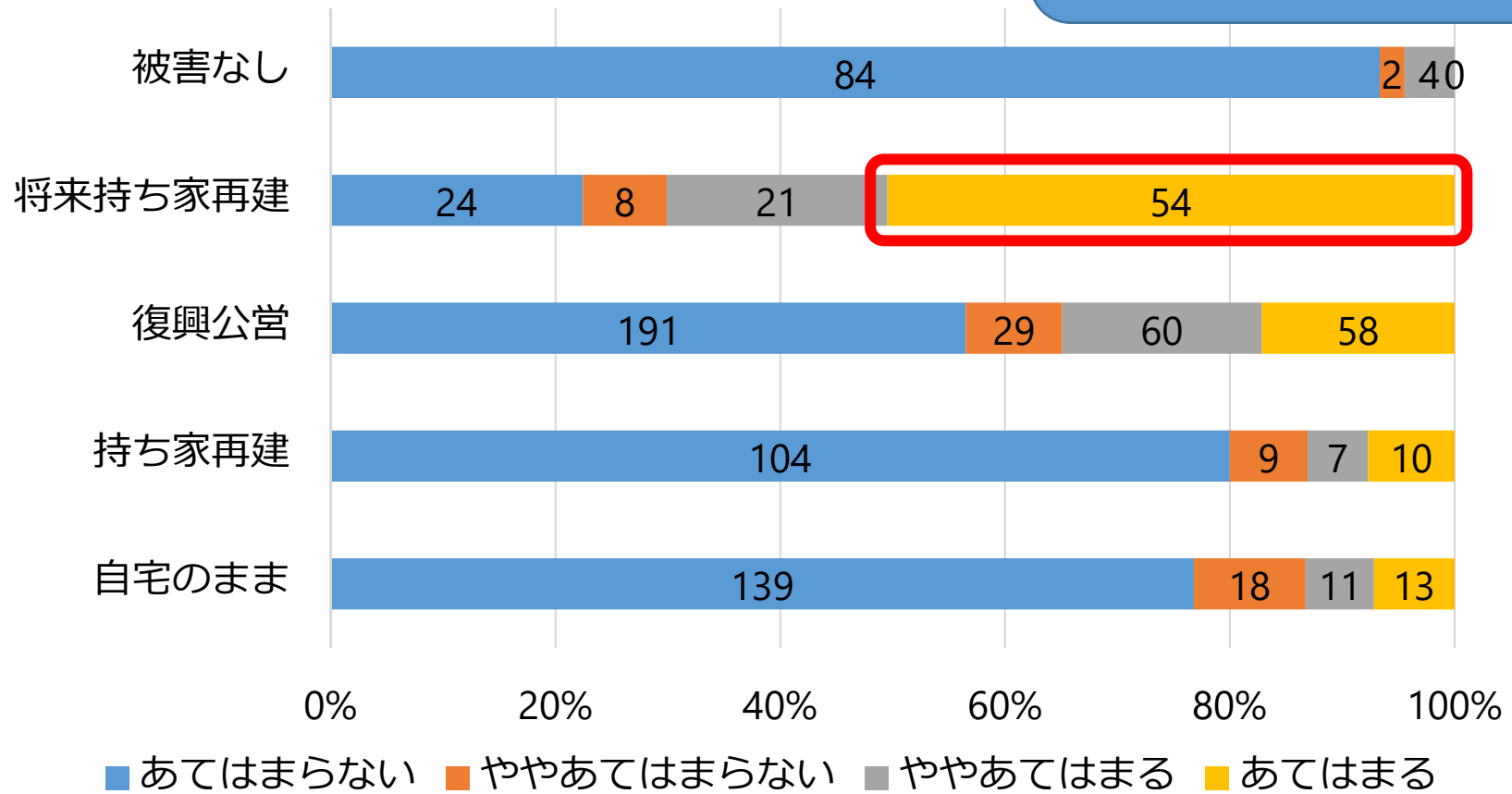
こころの健康(K6改訂版)

被害なしに比べると、それ以外の方はやや重い症状を抱えたまま。復興公営と将来持ち家(仮設)の方があまりよくない。

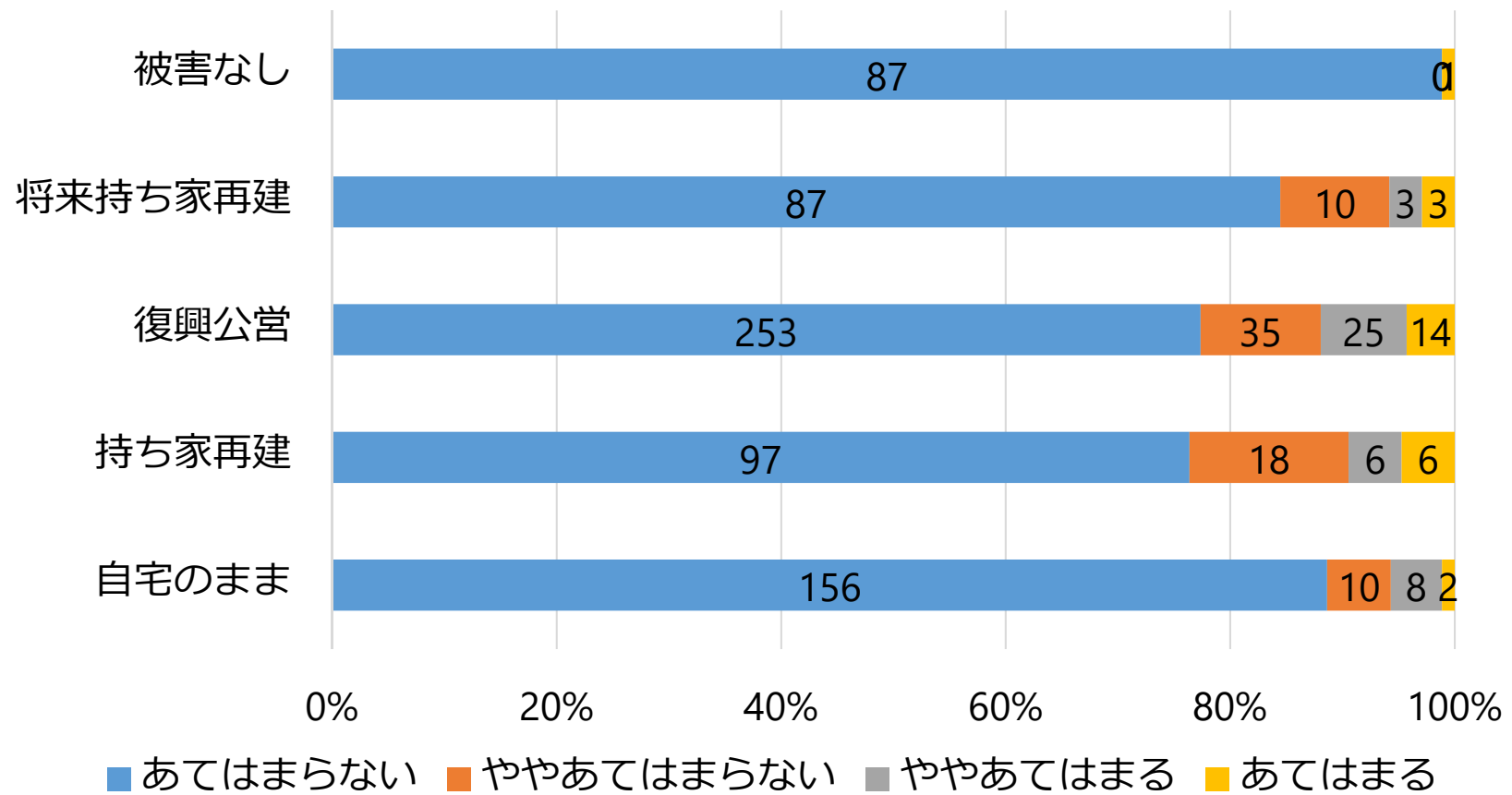


現在の困りごと (住居のこと)

将来持ち家を再建したいと
考えてる人は住居のことで
困っている。

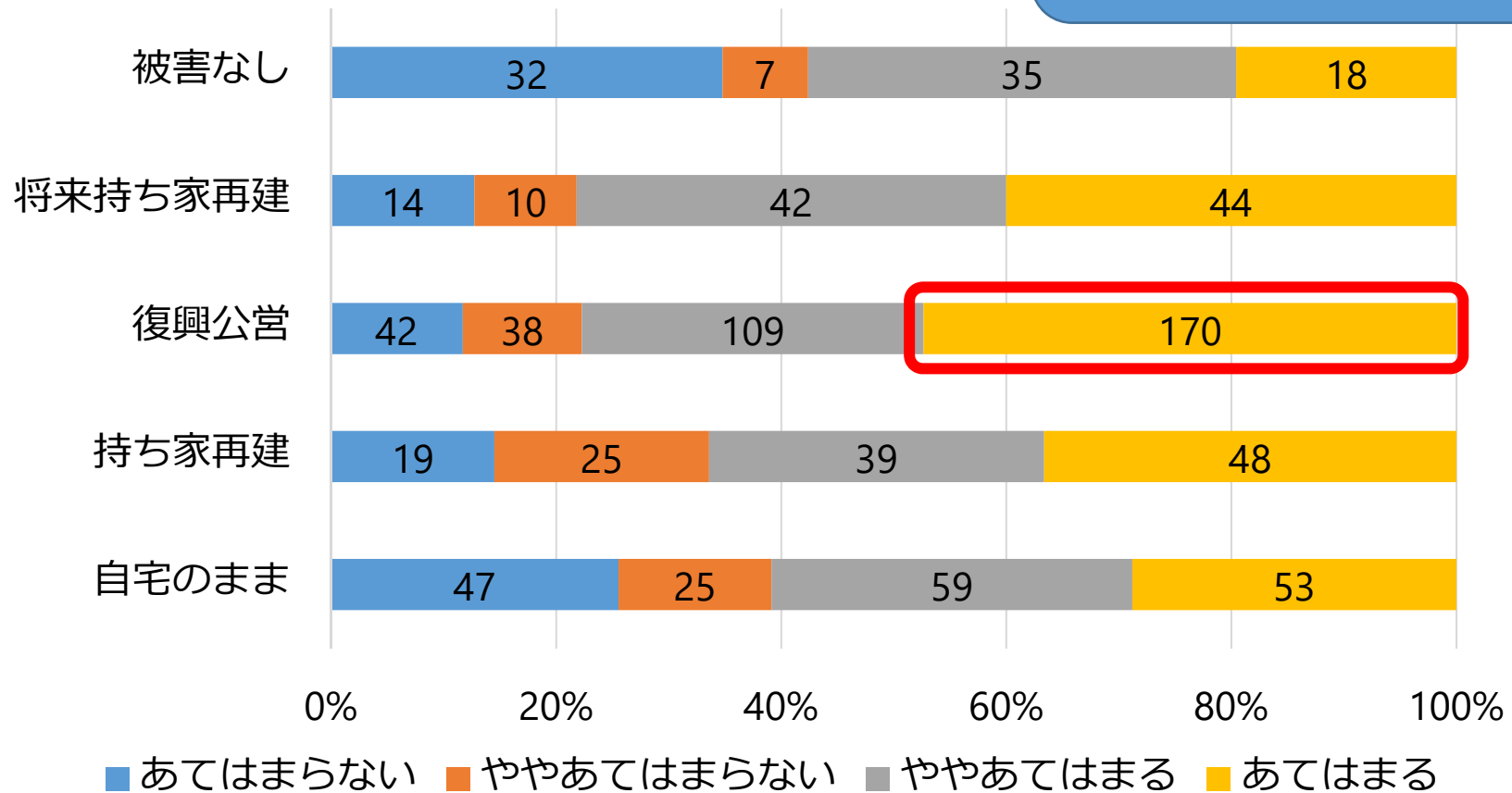


現在の困りごと (被災者同士のトラブル)



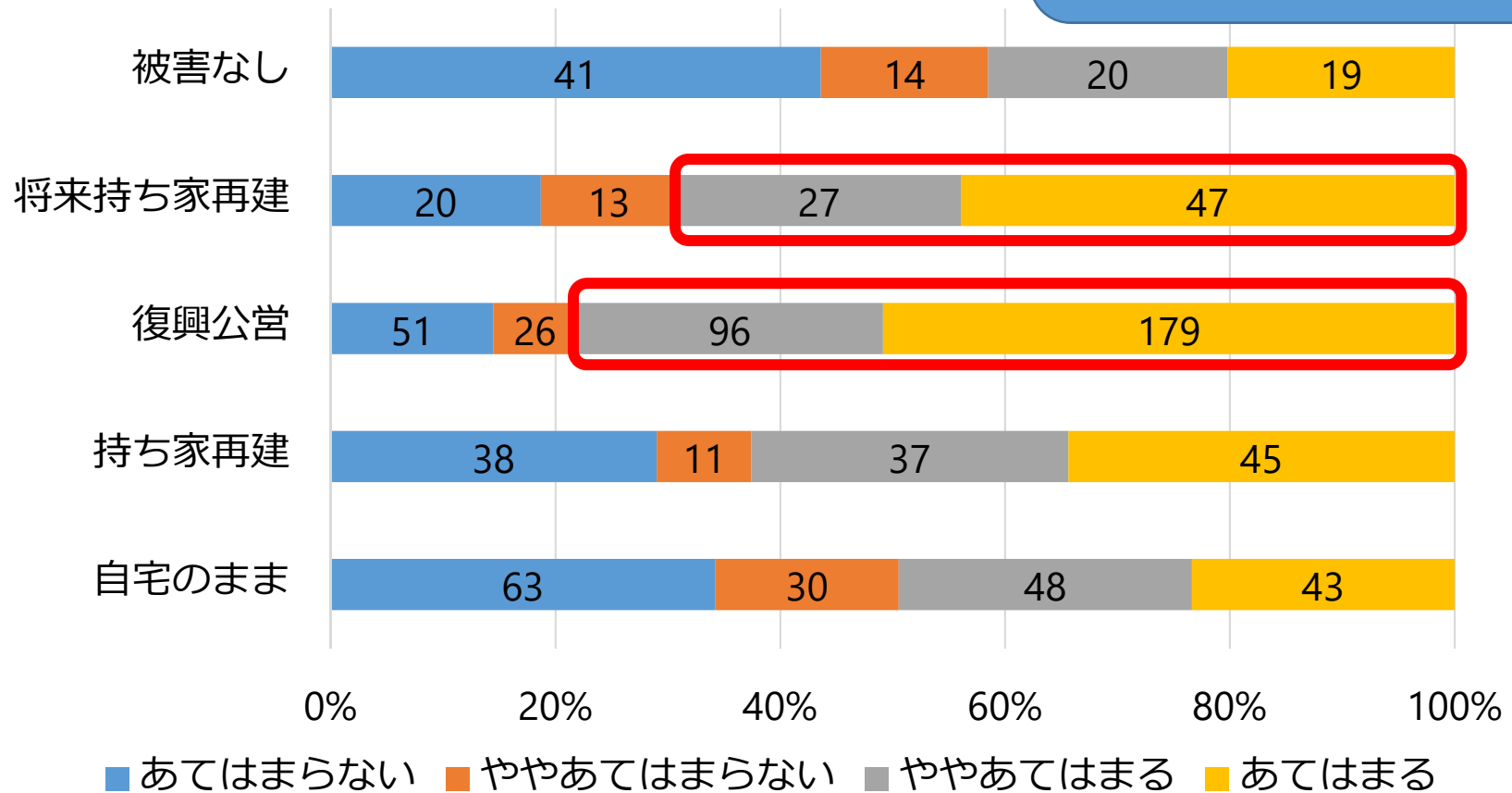
現在の困りごと (自分の健康のこと)

復興公営の方が健康について困っている人が多い。
被災した方は全体的に健康について困ってる。



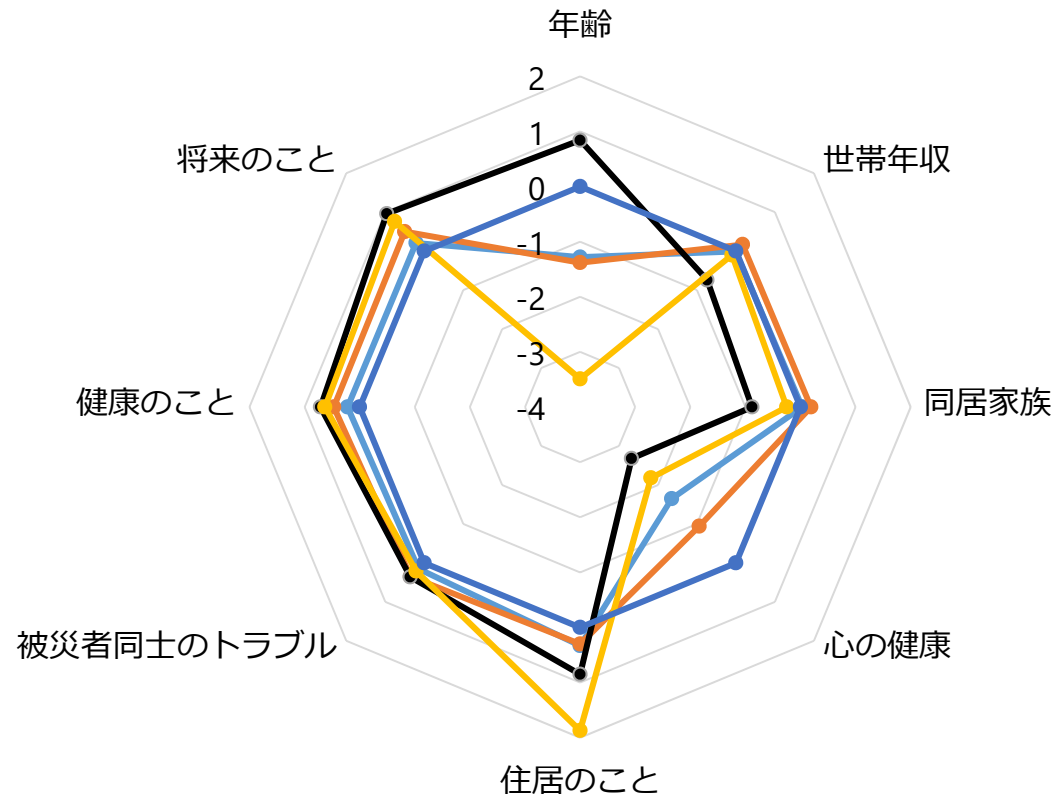
現在の困りごと (将来の生活のこと)

将来持ち家を再建したい、
復興公営は、将来の生活に
困っている方が多い。



5タイプのレーダーチャート 被害なしとの比較

●自宅のまま ●持ち家再建 ●復興公営 ●将来持ち家再建 ●被害なし



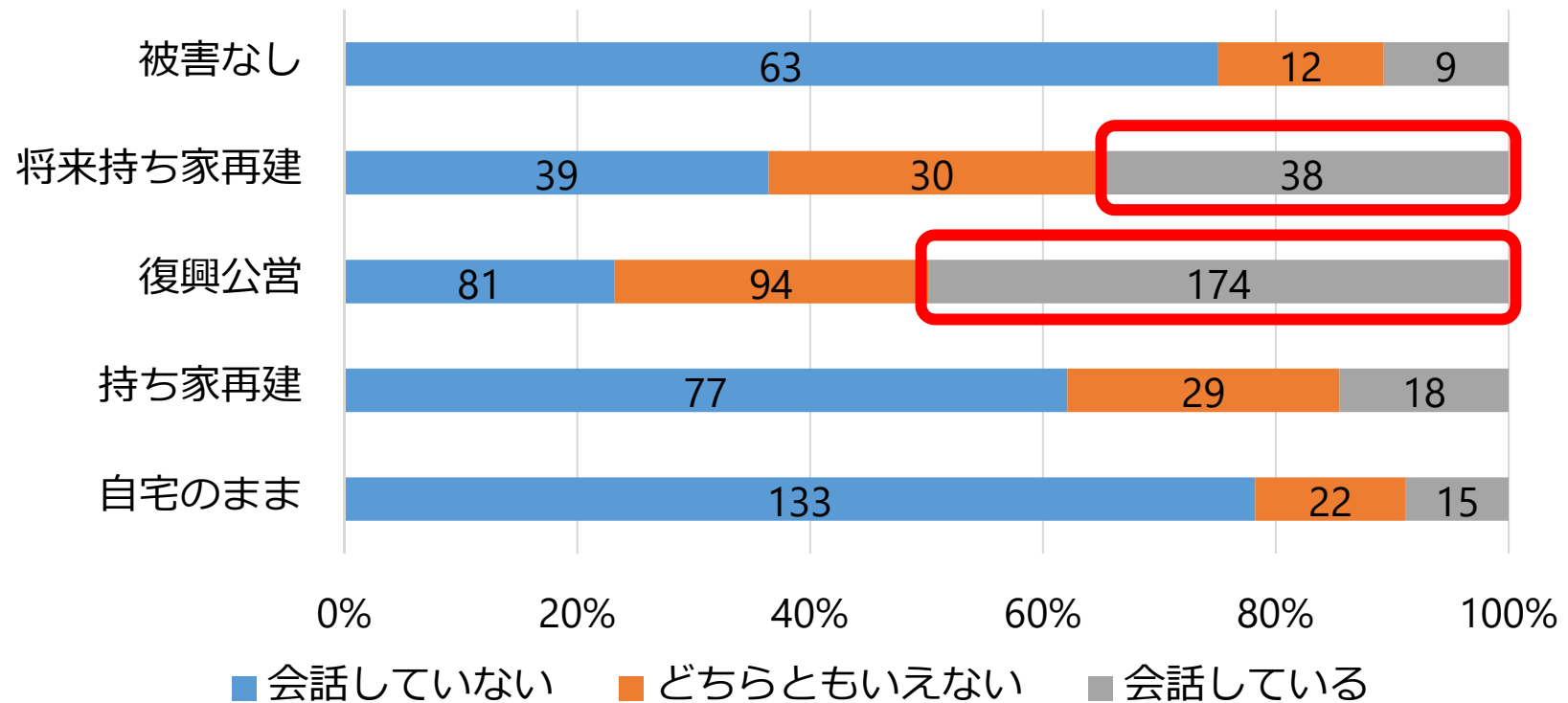
復興5タイプの特徴

- ① 自宅(被害あり)
- ② 持ち家再建
 - この二つのグループは似ている状況、家はなんとかあったが、被害なしよりは心の健康度がやや低い
- ③ 復興公営
 - 高齢化、女性の独居、低収入、将来の生活に不安が高い
- ④ 将来自宅再建
 - 年齢が相対的には若く、将来の住まいに不安を持っている
- ⑤ 被害なし

支援者とのコミュニケーション

復興公営や将来持ち家再建（仮設住宅）の人々は、@リアスと会話をしている。

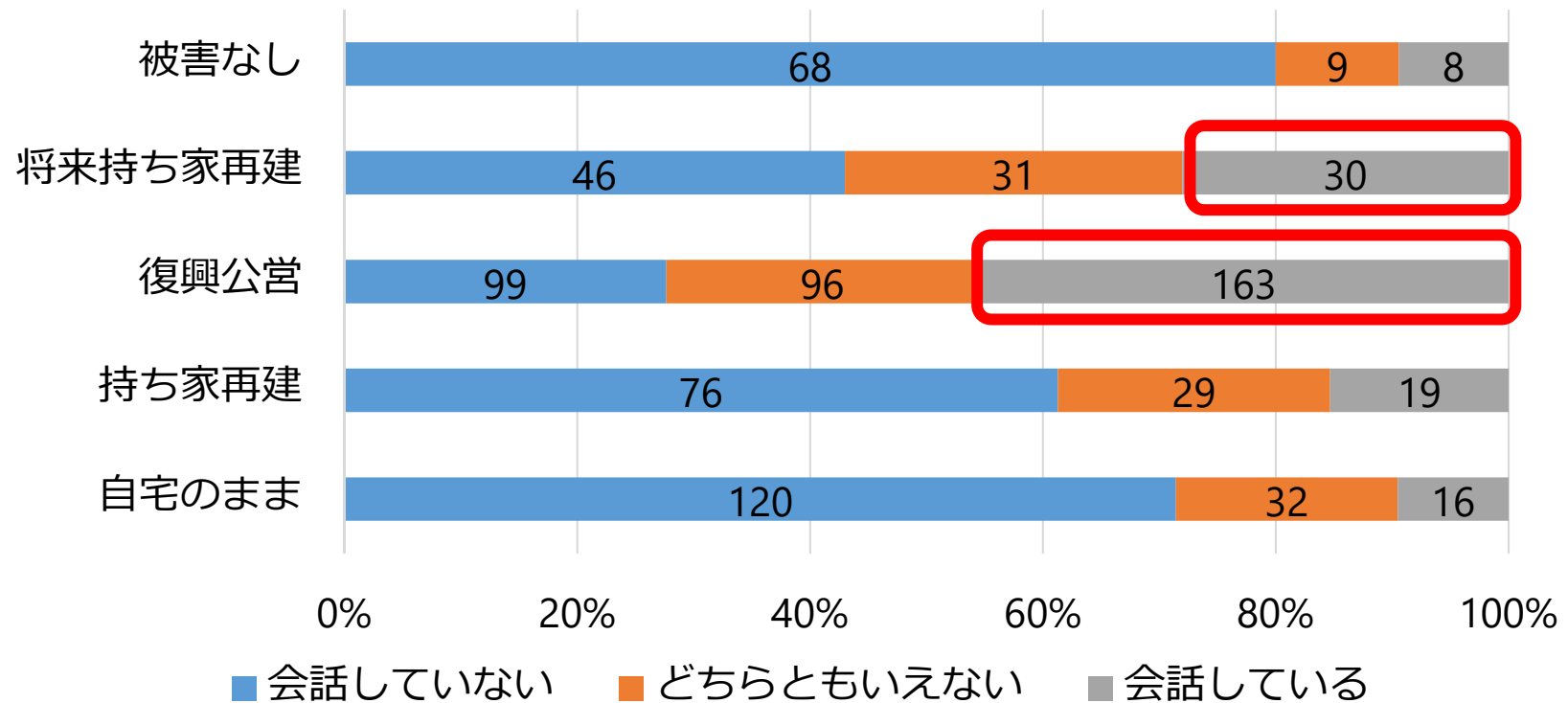
支援連絡員（@リアス）



支援者とのコミュニケーション

復興公営や将来持ち家再建（仮設住宅）の人々は、生活支援相談員と会話をしている。

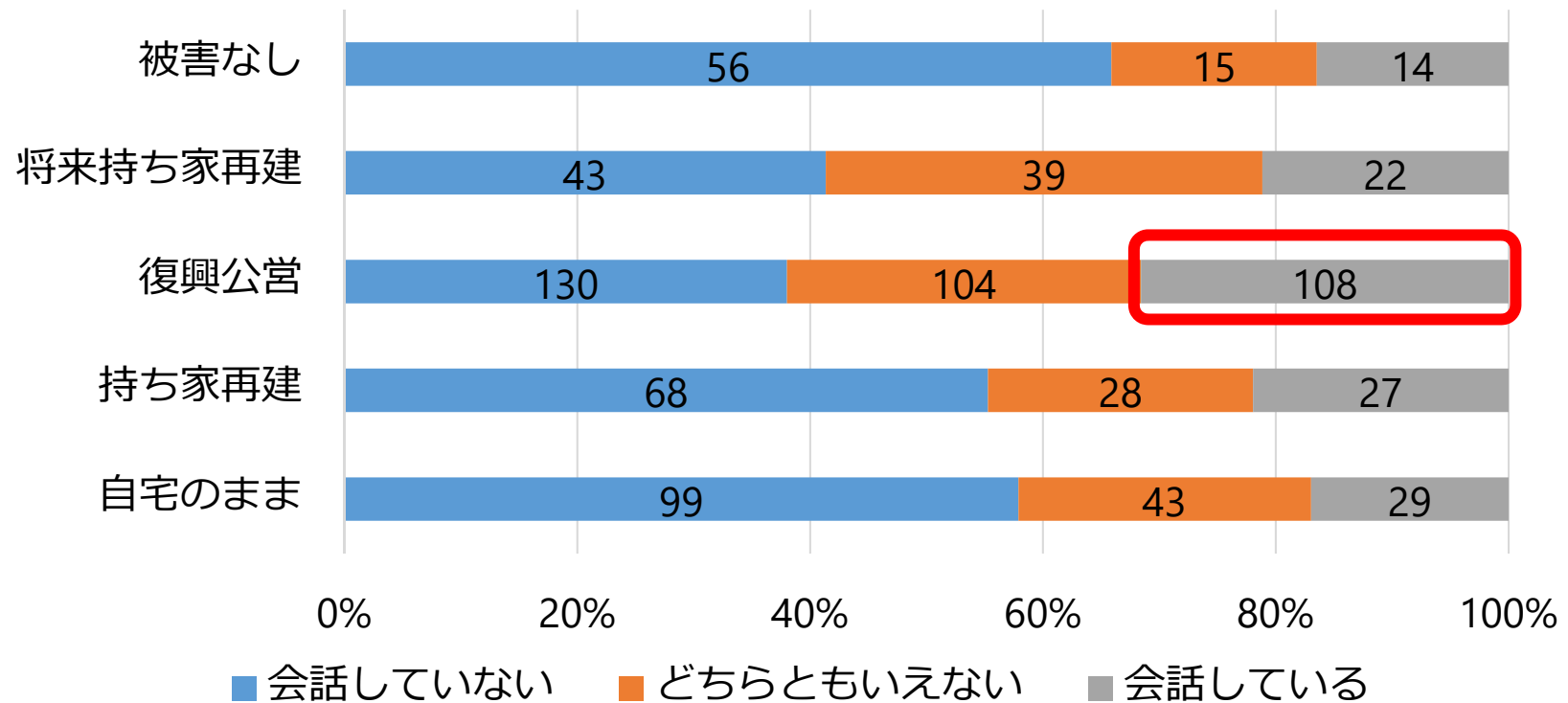
生活支援相談員（社協）



支援者とのコミュニケーション

復興公営の人々は、
市職員と会話をしている。

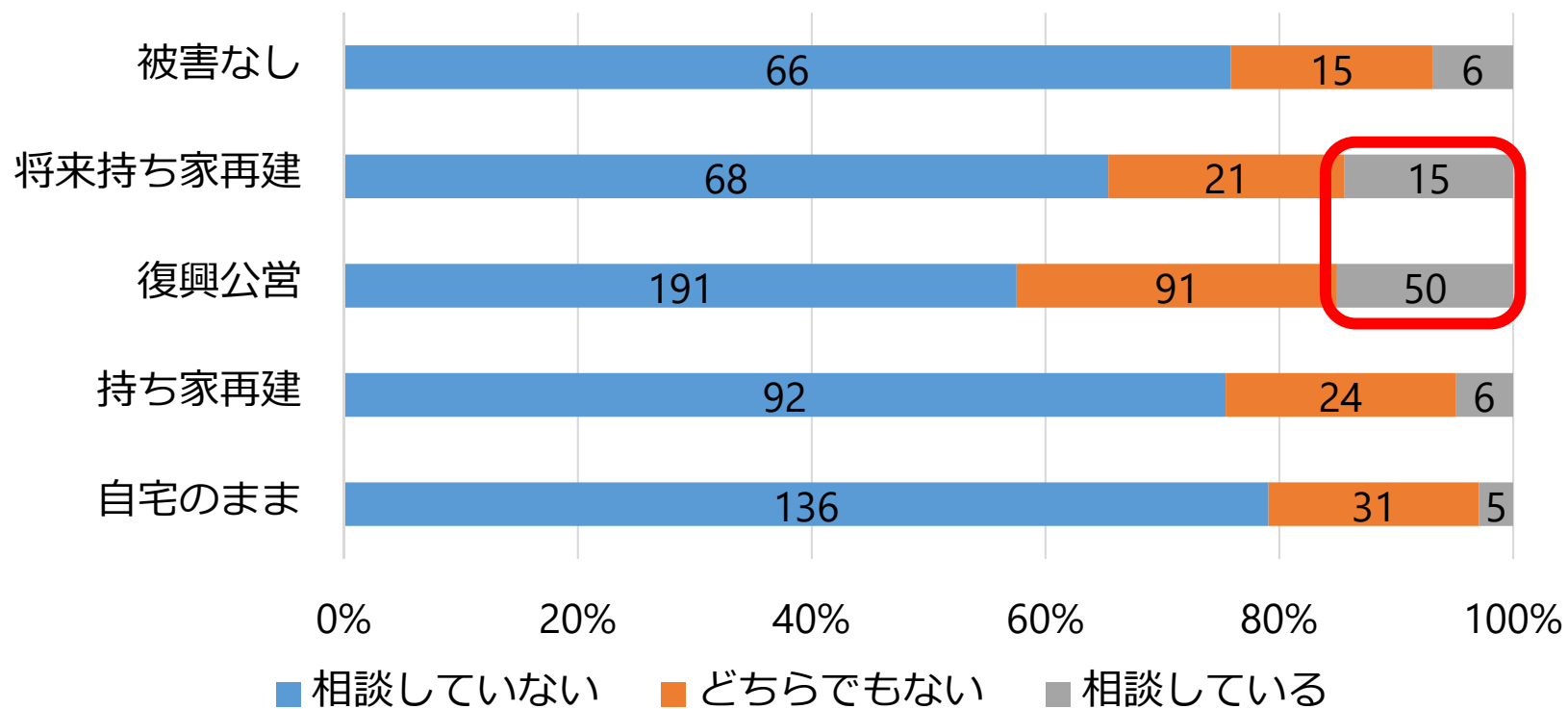
市の職員



支援者への相談

復興公営や将来持ち家再建（仮設住宅）の一部の人々は、@リアスに相談している。

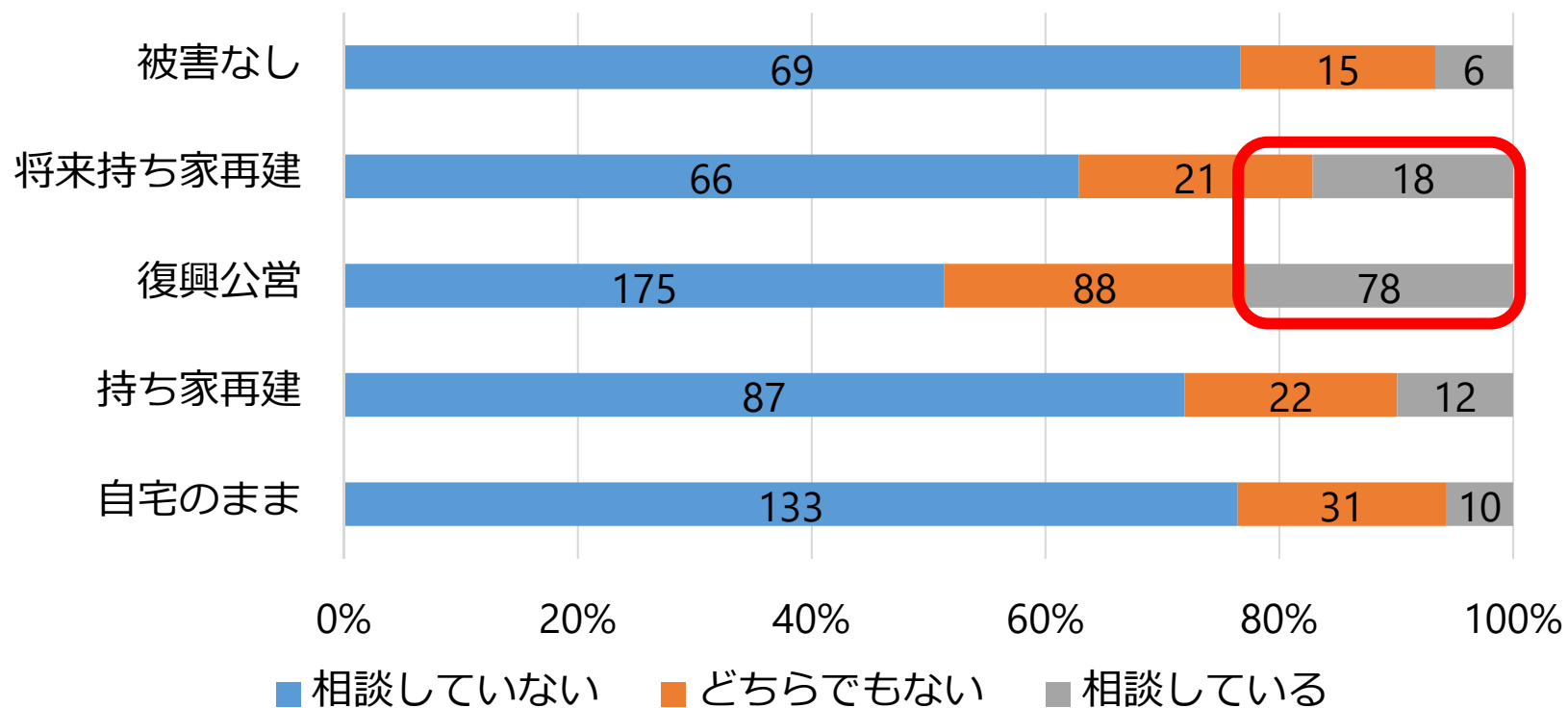
支援連絡員（@リアス）



支援者への相談

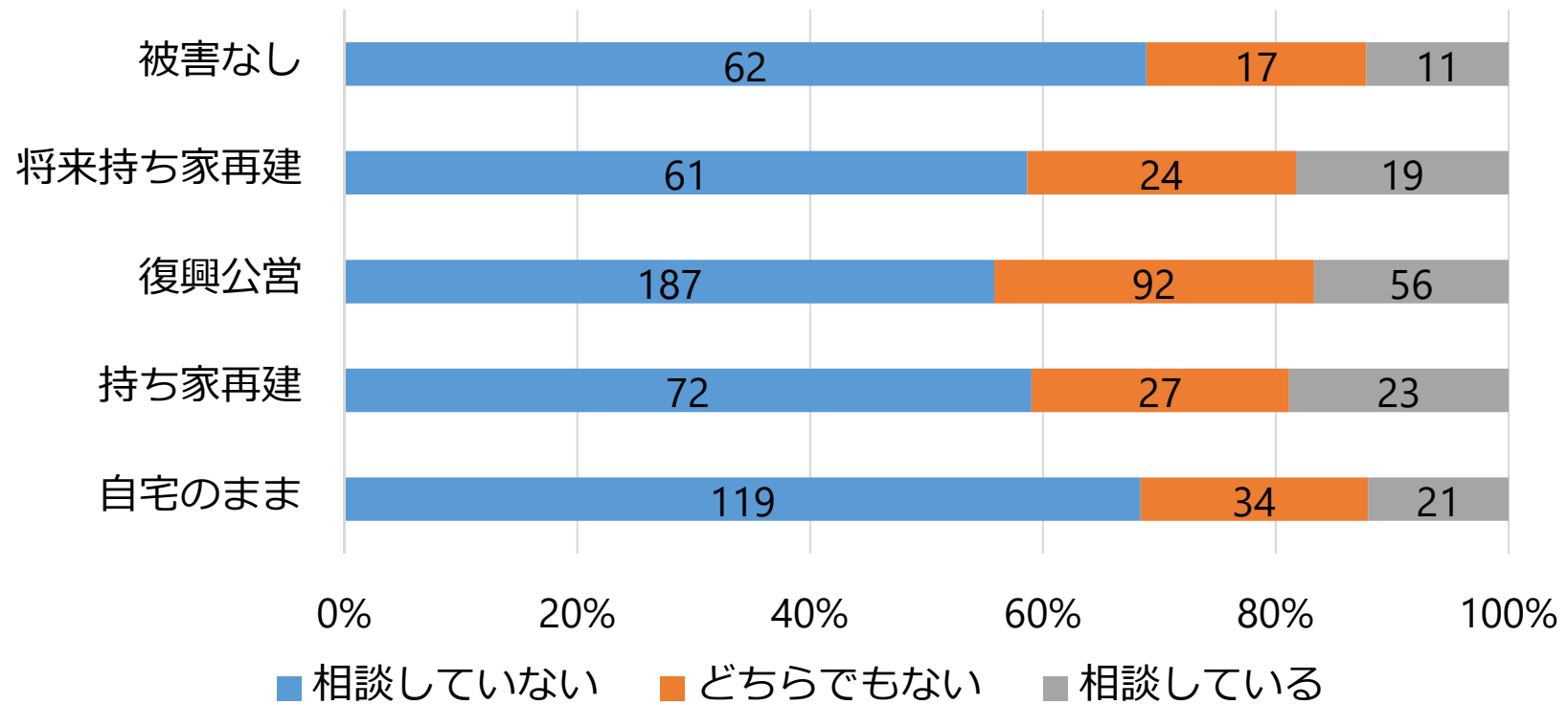
復興公営や将来持ち家再建（仮設住宅）の一部の人々は、生活支援相談員に相談している。

生活支援相談員（社協）



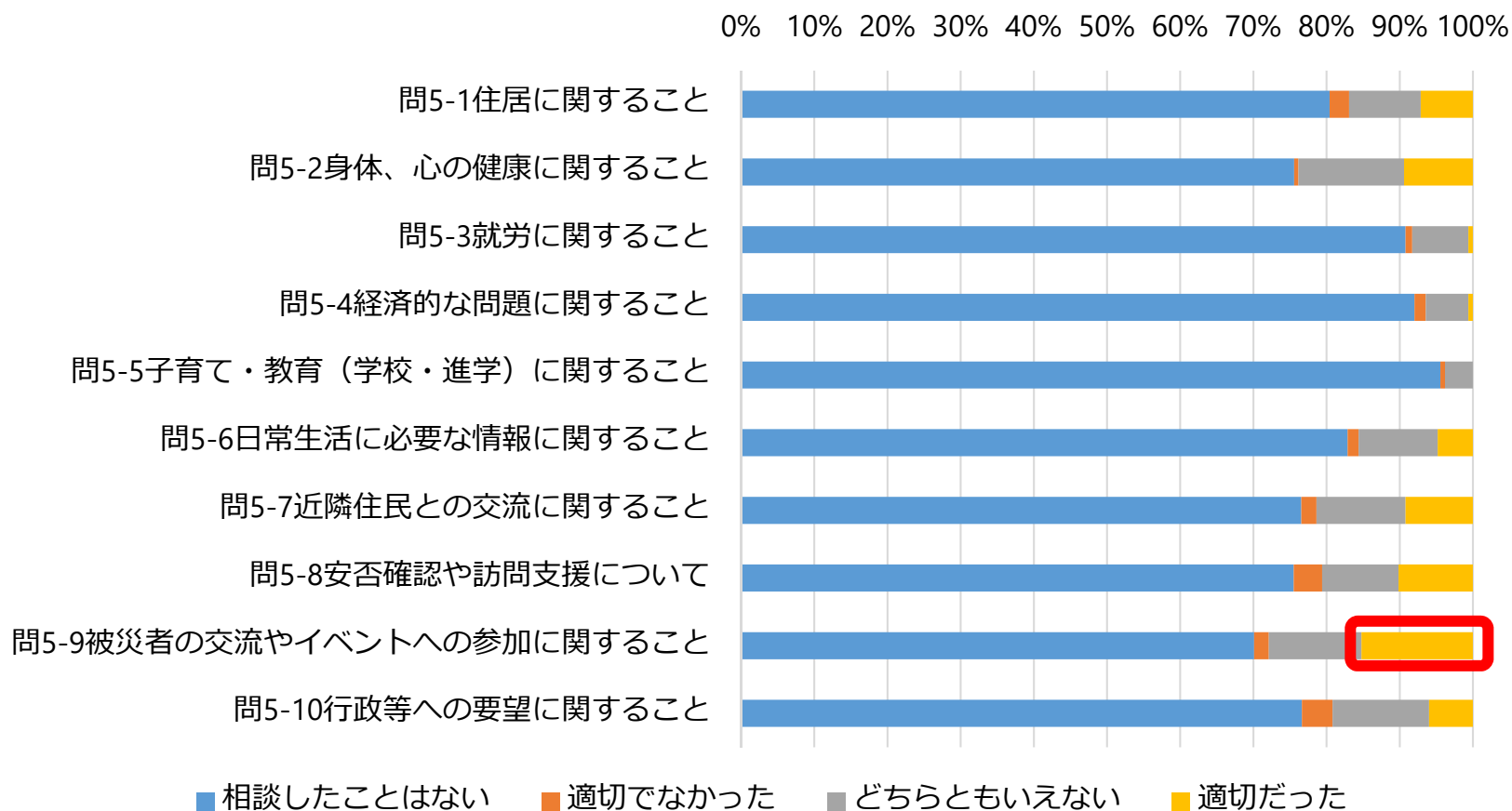
支援者への相談

市の職員



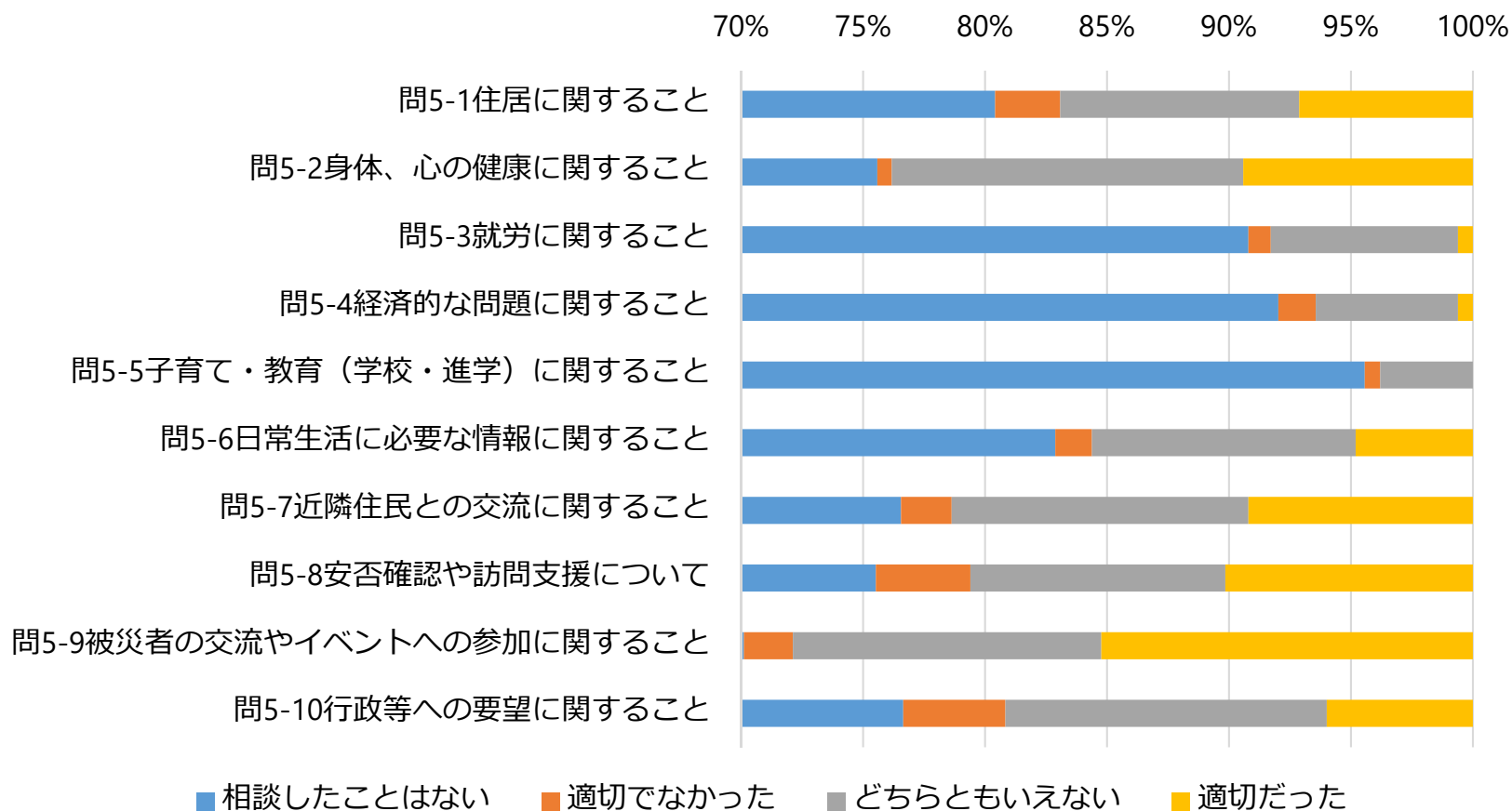
支援連絡員(@リアス)への相談経験 復興公営

個別のことについては相談していない人が多い。交流やイベントに関する相談経験が最も多い。



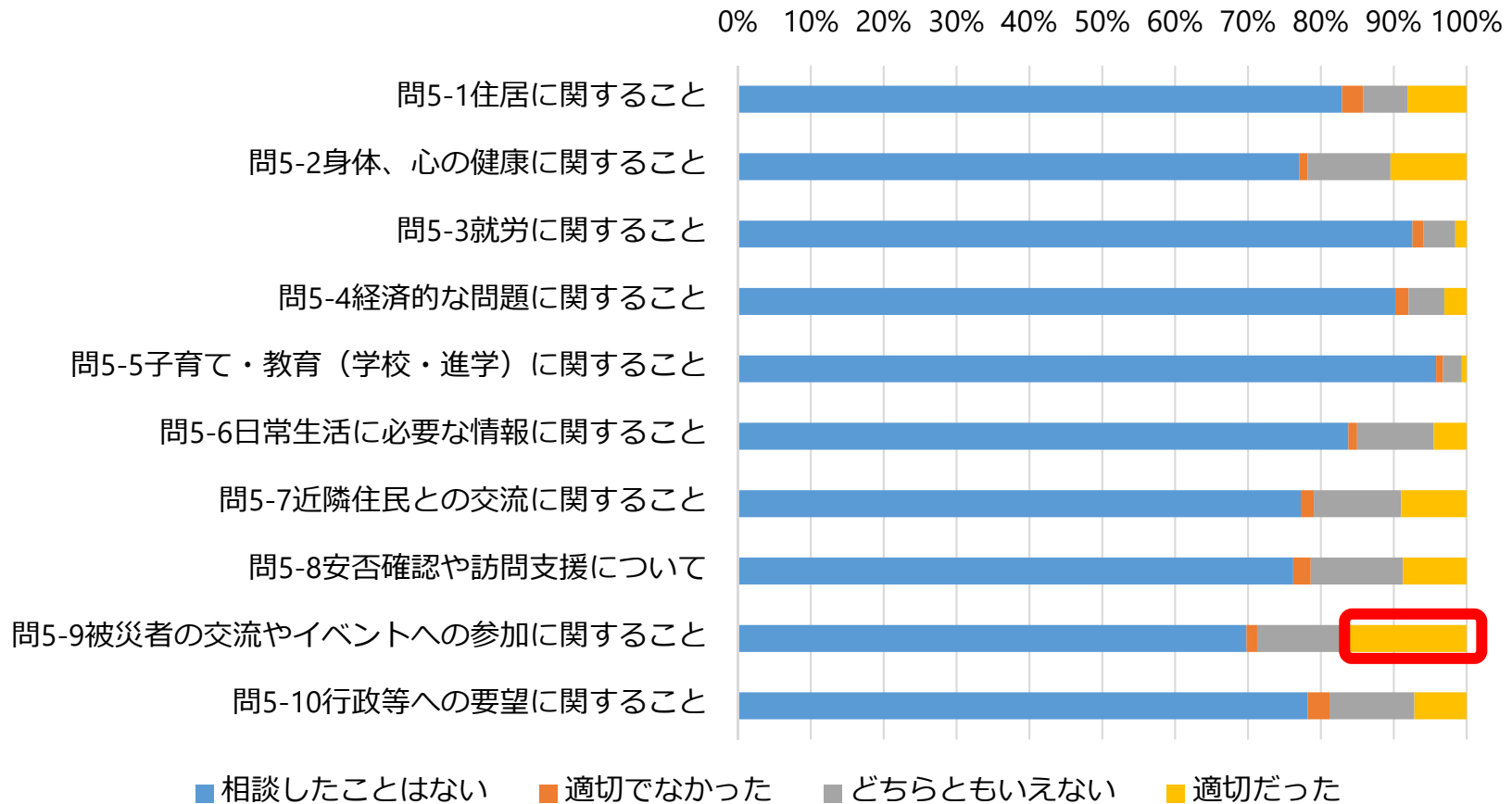
支援連絡員(@リアス)への相談経験(抜粋) 復興公営

相談については、「適切だった」「どちらともいえない」という評価が多い



生活支援相談員への相談経験 復興公営

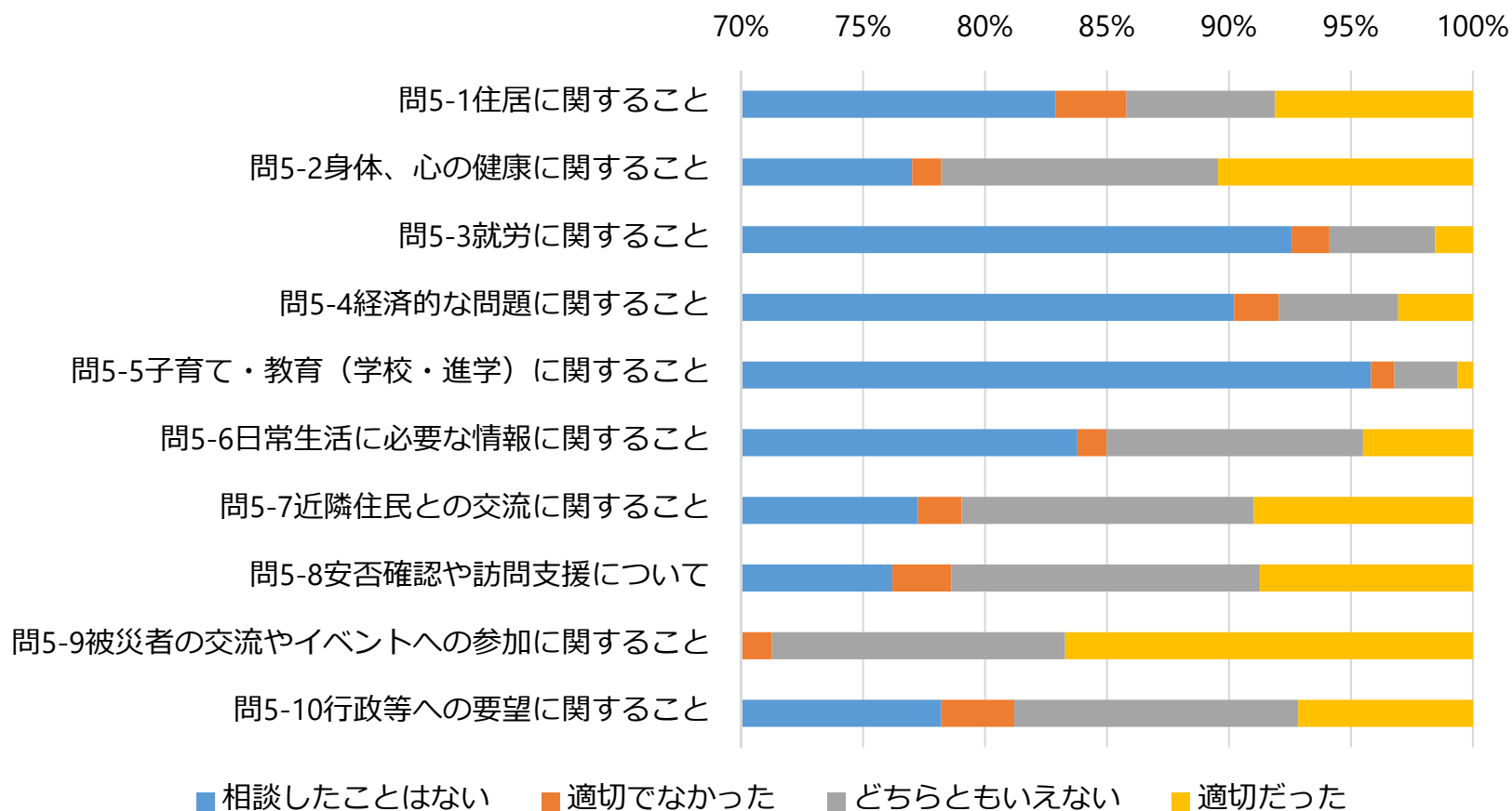
個別のことについては相談していない人が多い。交流やイベントに関する相談経験が最も多い。



生活支援相談員への相談経験(抜粋)

復興公営

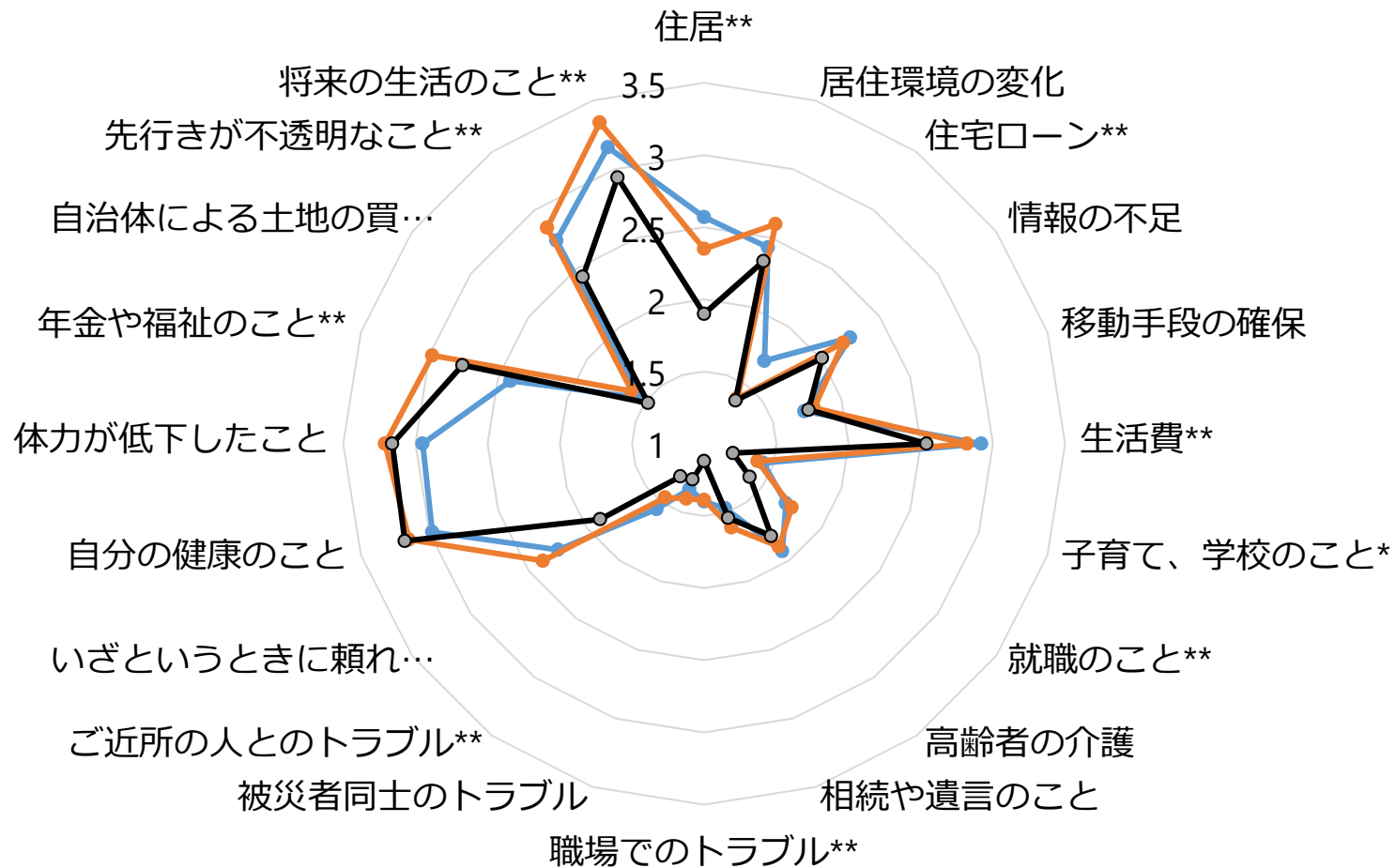
相談については、「適切だった」「どちらともいえない」という評価が多い



@リアスとのコミュニケーションと困り事

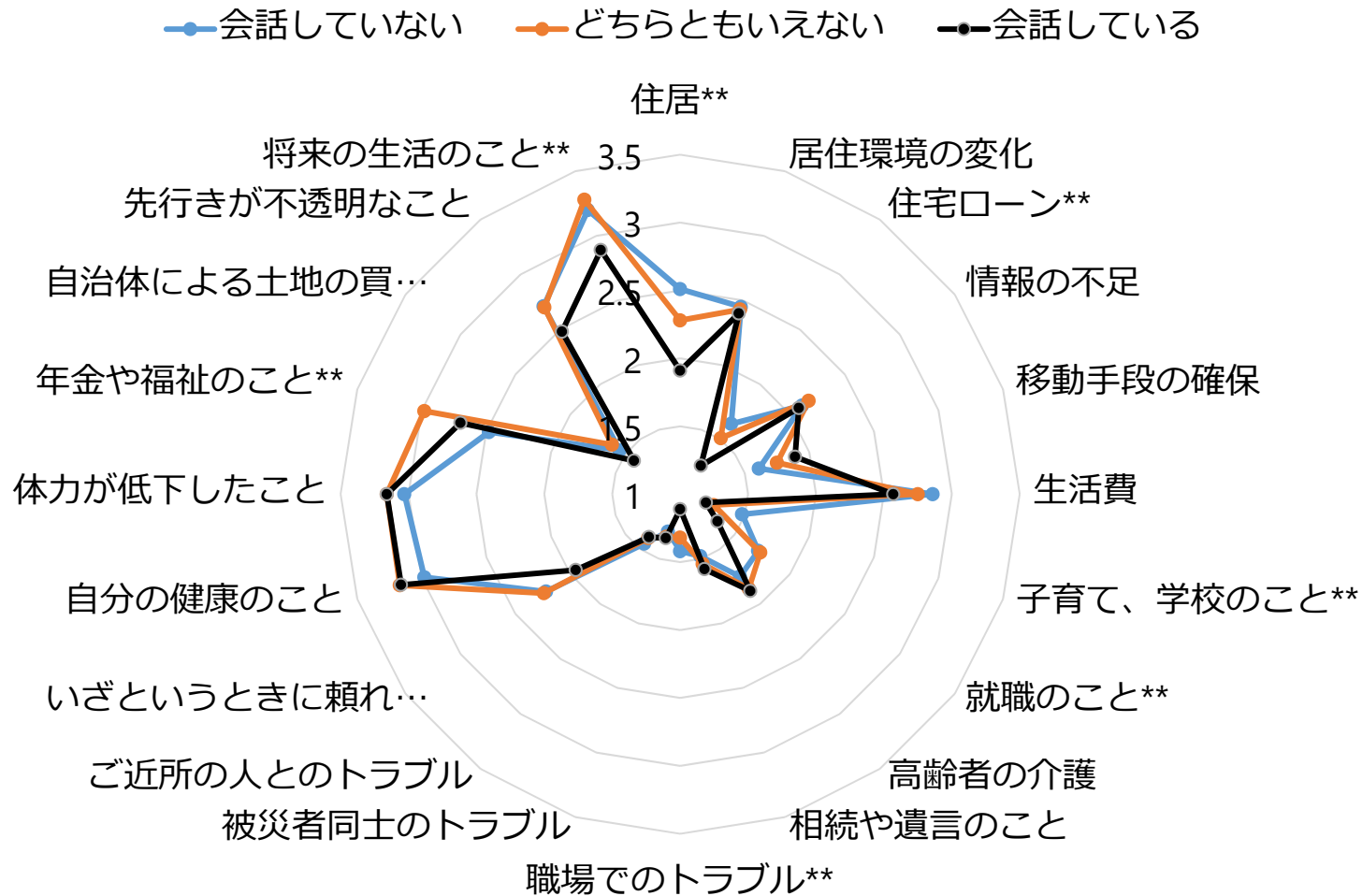
会話している人の方が現在の困りごとが低い

● 会話していない ● どちらともいえない ● 会話している



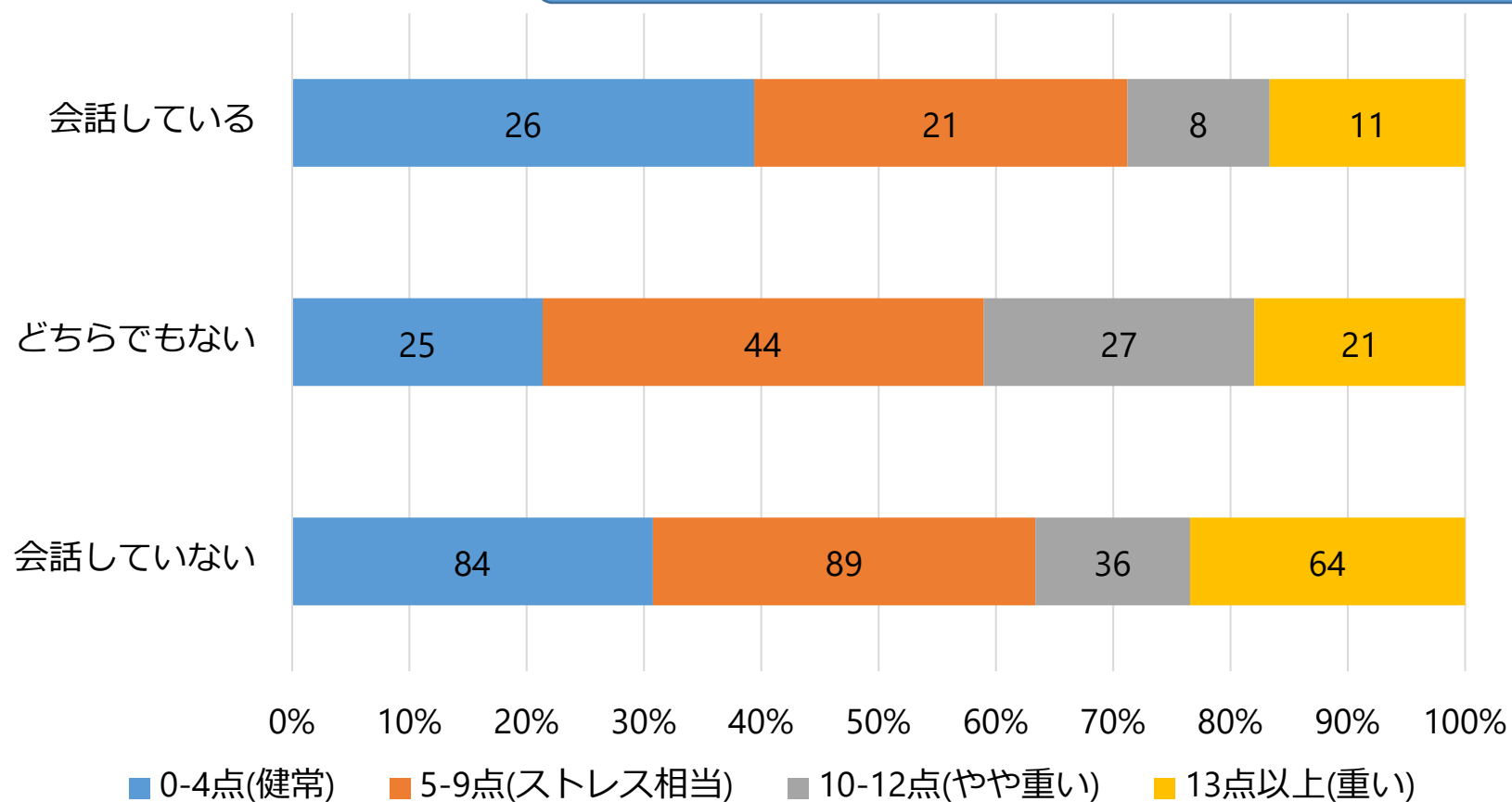
生活支援相談員との コミュニケーションと困り事

会話している人の方が現在の困りごとが低い



@リアスの会話とこころの健康

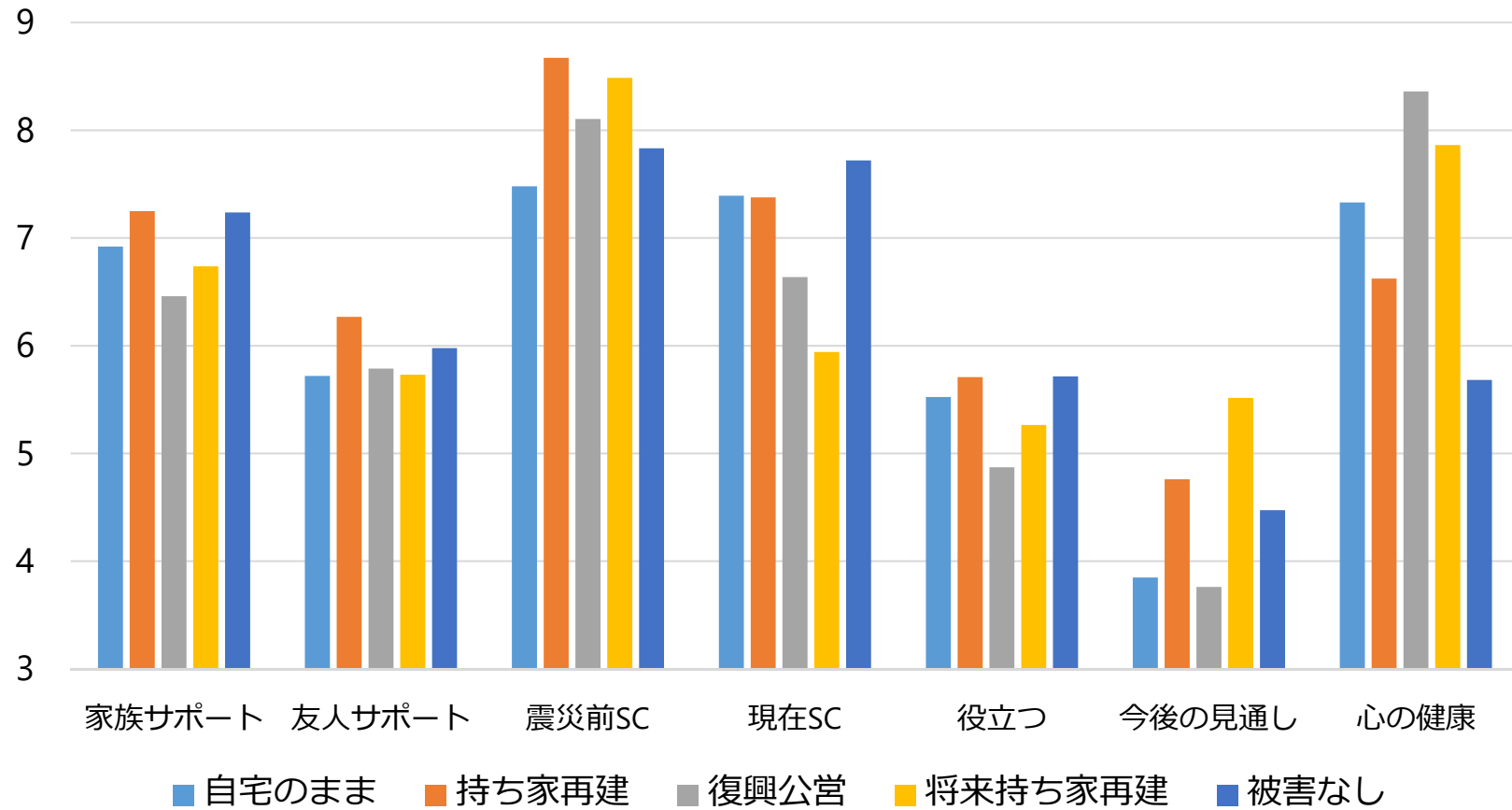
会話している人はこころの健康がよくなっている。



支援者とのコミュニケーション

- @リアスに対する回答と生活支援相談員に対する回答は非常に類似している
- 実際に相談経験のある人はそれほど多くない
 - 過去の記憶のため忘れてしている可能性あり
 - 「相談」という言葉がよくなかった可能性あり
 - 相談した人は不満は多くない
- 支援者と会話をしているひとたちは・・・
 - 現在困っていることが少なくなってきた
 - ころころの健康もよくなっている

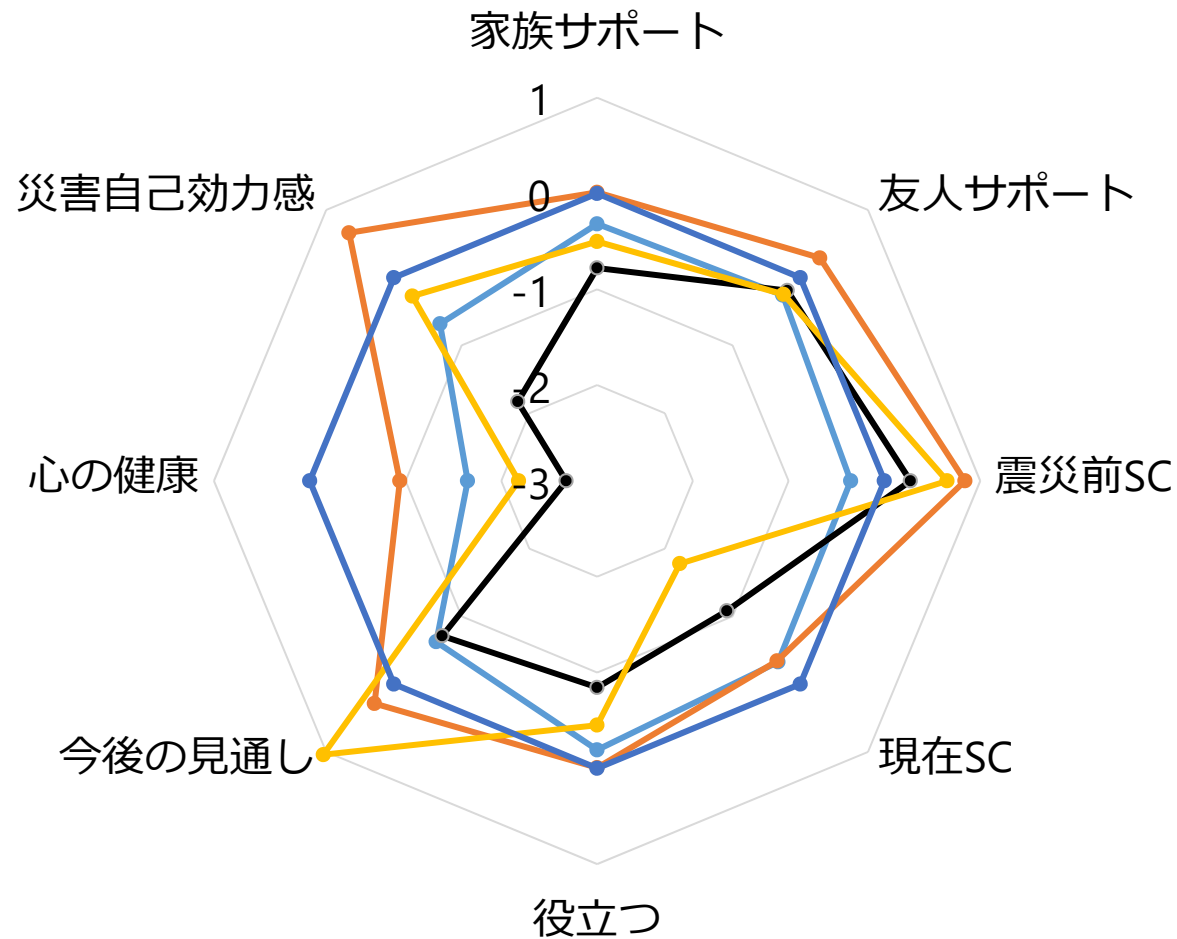
現在の認識の比較



現在の認識レーザチャート

被害なしとの比較

● 自宅のまま ● 持ち家再建 ● 復興公営 ● 将来持ち家再建 ● 被害なし

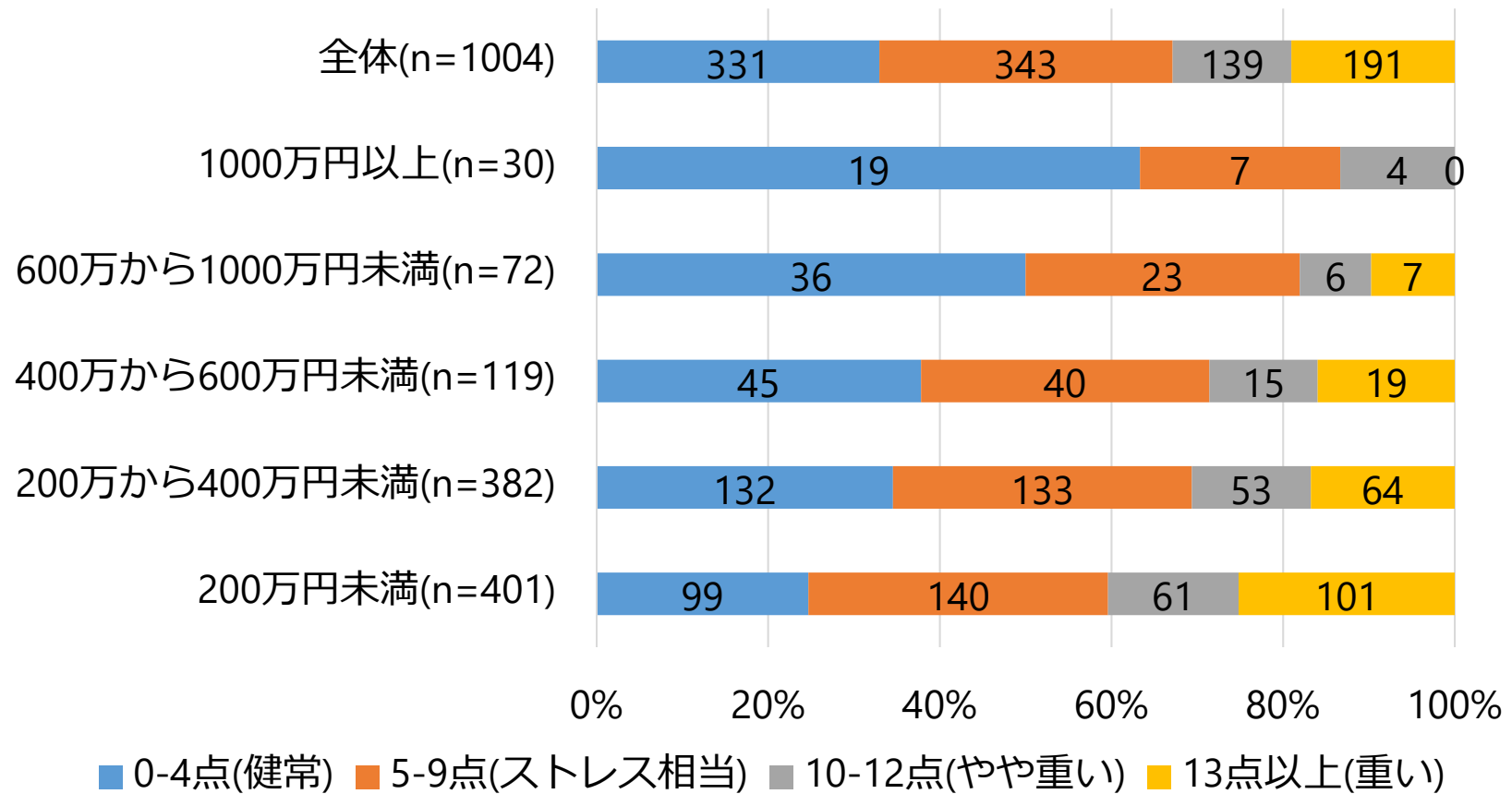


復興5タイプの特徴

- ① 自宅(被害あり)
 - 全体的にややネガティブで「持ち家再建」より悪い状況
- ② 持ち家再建
 - 災害自己効力感が高い、震災前のSCが高く、現在のSCが低い
- ③ 復興公営
 - 全体的にネガティブでもっとも問題を抱えている状況
- ④ 将来自宅再建
 - 将来の見通しがつかず、震災前のSCが高く、現在のSCが低い
- ⑤ 被害なし

世帯年収とこころの健康

低収入なほど、こころの健康が悪くなっている。



こころの健康の規定因

	自宅のまま	持ち家再建	復興公営	将来再建	被害なし
性別			.10 *		
年齢					
世帯収入				-.20 *	
家族サポート					
友人サポート					
震災前SC					
現在のSC					
日常ストレス	.29 ***	.44 ***	.36 ***	.40 ***	.37 ***
今後の見通し	-.19 ***		-.23 ***		-.24 ***
災害自己効力感	-.38 ***	-.33 ***	-.28 ***	-.30 ***	-.34 ***
<i>F</i>	25.31 ***	30.72 ***	44.71 ***	15.89 ***	10.60 ***
<i>adj R</i> ²	.33	.35	.39	.34	.30

日常のストレスを解消し、今後の見通しが持てるようにすることが重要
 災害自己効力感（自助・共助）を高める生活基盤作り

全体のまとめ

- 被害なしの人に比べると、被災した人々のここらの健康はまだ回復していない
- 中でも復興公営住宅は悪く、経済的にも心理的にも苦しい状況が継続している
- 仮設に残り自宅再建を待つ人も将来に対する不安が強い
- 被害があっても仮設でなく自宅で生活した人の状況もよくない
- 支援者と会話をしている人の方が、していない人よりも困っている事が少なく、ここらの健康状態もよくなっている
- 日常的なストレスの軽減と、今後の見通しが立てられるような継続的な支援活動が必要
 - 被災者支援から日常生活支援への切り替え

Acknowledgement

- 本研究は科研費基盤研究（B）「疑似実験的手法を用いた防災政策の実証的評価」（研究代表者：永松伸吾）の成果である。ここに記して感謝する。